

令和8年度入学生用カリキュラムマップ

【生活環境学科】

【基礎教育科目】

【専門教育科目（1年前期・海外語学研修科目）】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）								
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					1. 多様な 化・複雑化する社会を 理解する力	2. “生き ること”に つながる専 門性	3. 自他を 尊重する姿 勢	4. 失敗を 恐れず挑戦 する姿勢	5. 逆境や 困難に対応 するしなや かな姿勢	6. 論理的 に考え伝え る力	7. 新たな 価値を創造 する力	8. 多様な 人々と協働 する力	
					知識			姿勢		行動			
1	2	3	4	5	6	7	8						
26UHEC1001	初期演習 I	1	本学で修得すべきことは何かを理解し、自主的に学び新たな発見を導きだせる力を身につけることを目的とする。このため、本学の「立学の精神」および人材育成方針「MUKOGAWA COMPASS」を知り、本学学生としての誇りと自覚を持つ。さらに、MUKOGAWA COMPASSに掲げられた「自ら考え、動く」ための力を培い、女性として有為な社会人となるために、それぞれの学部学科の専門性に基づく知識と社会人基礎力の修得の必要性を理解し、各自のキャリアデザインを自ら構築する。	大学の修学の基礎となる単位制を理解し、適切な履修計画に沿って修学する主体性、考える力を身につけ、人材育成方針「MUKOGAWA COMPASS」と所属学科の3つのポリシーに基づく専門教育の概要を把握し、自らのキャリアデザインを組み立てる力を身につける。また、良識ある社会人となるための社会人基礎力の必要性を理解し、その基盤となる十分なコミュニケーション能力を培い、基本的な社会ルールを理解し、本学学生としての誇りと自覚を身につける。さらに、学習・研究を進める上での倫理の基礎となる情報の取り扱いに関する知識を身につける。	◎		○		○				○
26UHEC1002	初期演習 II（生活環境）	1	「初期演習」の目的は、初年次学生が、学院の教育理念に基づいて、本学学生としての誇りと自覚を持ち、MUKOGAWA COMPASSに掲げられた「自ら考え、動く」ための力を培い、学部・学科の教育目標を達成するように導くことである。	1. 「立学の精神」およびMUKOGAWA COMPASS、学院の歴史について理解する。 2. 主体的に学び、実践する姿勢を身につけ、積極的に意見を発表・伝達するために、本を読み、自ら考え、文章に表現するなどの基礎的な能力を養う。 3. 学生相互や担任教員との豊かで円滑な人間関係の基礎を築く。 4. 女性として社会で活躍するための、キャリア形成の基礎を身につける。 5. 生活環境学科で学ぶ内容を理解し、主体的な学習計画をたてる。				○		◎		◎	
26UHEC1003	生活環境論	1	身近な生活環境問題について考察を行い、我々の生活様式や考え方といったものが生活環境に密接に結びついていることを知る。また、生活中のモノやデキゴトをどのように意識して捉えているかといった環境観や価値観が生活環境問題を議論する際に重要となることを学習する。	生活環境にある疑問や課題を自ら発掘し、将来の研究において自ら問題設定ができる能力を養うことを目的とする。	◎					◎			
26UHEC1004	生活科学	1	生活環境学科での学習において必要となる基礎的な科学的知識の習得を目的とする。学修によって生活における様々な現象を科学的な視点で捉え、論理的に思考する能力の育成を目指す。	今後の専門科目の学習や研究で必要となる自然科学（化学、物理、および生物）の基礎的な知識を習得することを目標とする。習得した知識にもとづく論理的思考により、擬似科学や迷信に対する批判的態度を身につける。	○	◎				◎		○	

令和8年度入学生用カリキュラムマップ

【生活環境学科】

【衣環境・アパレル領域】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）									
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 多様化・複雑化する社会を理解する力	2. “生き残る”につなげる専門性	3. 自分を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力		
					知識		姿勢		行動					
1	2	3	4	5	6	7	8							
26UHEI1101	服飾デザイン論	1	今日の服装は多様化し個性化が求められている。服飾デザイン論では衣服をデザインする側、またそれを選択する側として、服飾デザインの基礎を系統的に幅広い観点から学ぶ。また衣服の主流を占めているアパレル製品のデザインについても理解を深める。本科目は、中高教科家庭を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	学生は服飾デザインに関して3つの目標到達に取り組む。 1. 服飾デザインにおける用と美の融合を分析し、美的な側面を認識する能力を獲得する。 2. 造形要素やディテールに関する知識を習得する。 3. 服飾デザイン・企画に関するファッションビジネスの基礎的知識を習得する。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎						◎		
26UHEI1102	アパレル構成学実習Ⅰ	1	人体を被う衣服の一連の製作過程を学び、被服構成の知識や技術を修得する。またこれらを応用発展させる能力、時代の持つファッション性や美的感性、さらに既製衣料の選択眼も養うことを目的とする。本科目は、中高教科家庭を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	原型を使用した衣服パターンの作図と衣服の組み立て工程の理解、服種と表布・裏布・芯地・糸・針の関連性への理解、基礎縫製技術、縫製実習にかかわる機器類（職業用ミシンやロックミシンなど）や道具の使用が習得ができることを到達目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		○		○				◎		
26UHEI2103	アパレル構成学実習Ⅱ	2	身体を包む衣服の造形について、パネルラインのワンピース制作を通して、切り替え線および身頃のウエストに合わせたスカート（またはパンツ）の作図、曲線（パネルライン）の縫製、ワンピースのあきの考え方などの基礎理論ならびに縫製技術を習得し、さらに応用能力を養うことを目的とする。	基本的な服種（アイテム）の制作を通じて、デザインから作図、縫製といった構成面を理解し、服飾全般の知識と技術を身につけ、様々なアイテムに応用・発展できる基礎力を養うことを目標とする。		○			○				◎	
26UHEI1104	衣生活管理学	1	衣生活や住生活を考えた場合、汚れを界面現象を利用して落とすことは重要である。この講義では、主に洗浄を中心に、界面の科学を理解することを目的とする。	洗浄を中心とした繊維製品のメンテナンス、製品の初期性能の維持、トラブルの原因について、原理から理解できるようになることと、応用力をつけることを目標とする。		◎					◎			
26UHEI1105	衣生活管理学実験	1	衣生活や住生活を考えた場合、汚れを界面現象を利用して落とすことが必ず行われる。特に繊維製品のメンテナンスに関わる知識は極めて重要である。色や柄がいくらよくても、洗濯しにくかったり、洗うことで品質が低下しては困る。洗浄の主役は、界面活性剤である。ここでは、実験を通して、洗浄を中心に界面の科学をより深く理解することを目的とする。	洗浄や洗濯に関係する事象を、実験を通して、表面的ではない、本質的な理解に至ることを目標とする。		○			◎	◎				

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）							
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生きながらえること”につながる専門性	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
1	2	3	4	5	6	7	8					
26UHEI1106	織 維 学	1	繊維が、最終製品のデザインや被服の機能に与える影響は大きい。美しく快適な衣生活のために、繊維のなりたちや性能を理解し、使用目的にあった素材の選択ができる知識を身につけ、制作、取り扱い、加工などに役立つ幅広い資質を養う。	“繊維”の基礎知識を身につけ、豊富な繊維素材を目的に応じて自由に選択できる能力を養い、被服をはじめとする生活素材として実生活の中で役立たせることを目標としている。	○	◎				◎		
26UHEI2107	織 維 科 学 実 験	2	「繊維学」「繊維製材材料学」で学んできた知識を実験を通してより明確なものにする。また、実験方法を工夫・実行し、物の考え方を学び、レポートにまとめることにより、事実の記述、思考と伝聞の記述表現における区別、データの整理法などを習得する。	さまざまな繊維のなりたちや性質、適性を実験によって観察し、繊維素材の本質を理解する。実験レポート作成の基本を習得する。		◎			○	◎		
26UHEI1108	ア パ レ ル 未 来 学	1	深刻化する気候変動に対して、持続可能な社会を強く意識し取り組むアパレル企業の動向や、「服を買う」ことに対する意識の変化が与えるアパレルへの影響、様々な社会問題に対して求められるアパレルの役割など、歴史や社会的背景、文化や産業など様々な視点からアパレルの未来を考え学ぶ。	これから求められるアパレルの役割を歴史や社会的背景、文化や産業など様々な視点から理解し、自身の衣生活や社会に対して問題提起でき、これからのアパレルの未来を考える能力を養う。	◎			○		◎	○	
26UHEJ1335	暮 ら し の 人 間 工 学	1	本科目の目的は、暮らしの中のモノや空間と人との関係を人間工学的視点で捉え、適切なデザインを理解することにある。本科目は、中高教科家庭を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	モノや空間を対象に、それらを使う人の特性から危険や不安を発見する観察力を身につけ、人間工学の視点で安全・安心・快適なデザインを提案する素養を修得する。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎		◎			◎		
26UHEI1109	ス タ イ ル 画 実 習	1	スタイル画は、デザインを行うための作業ではなく、アパレルメーカーのあらゆるシーンで必要となるものである。例えば、「カタログ」等へは、ファッションスタイル画であり、「企画表」「展示会受注ブック」といった資料作成の上では、ハンガーイラストといったものを描くことが、必要となる。スタイル画を学ぶことは、衣服表現の幅を広げられることにつながり、また、それらを読み取る力ともなる。以上のように、この科目では、2次元でのファッションデザインの表現が行えるよう、人体プロポーション、着装方法、ハンガーイラスト等を学びとることを目的とする。	人体ポーズの理解を含め、人が着て美しいと思う要素は何であるか、また、そのためにできる表現とは何であるかを学びとり、最終的には、デザイン行為を含めた、自由なファッションスタイル画を描けるようにする。					◎		◎	
26UHEI1110	フ ァ ッ シ ョ ン コ ン プ ュ ー タ 実 習	1	近年、アパレル業界においてもコンピュータは幅広く利用されており、CG（Computer Graphics）によるデザインやプレゼンテーションが必須となっている。アパレル業界で広く使われているグラフィックソフト（Adobe Illustrator、Photoshop）を主に使用し、コンピュータを使ったビジュアル表現の方法を学ぶ。	カラージュ作品やハンガーイラストの作成およびスタイル画の着色にCGを活用できる。素材感の表現やカラーバリエーションの展開など、効率よく効果的に自らのデザインを表現する。					◎		◎	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）							
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生きながらえること”につながる専門性	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
1	2	3	4	5	6	7	8					
26UHEC1018	家庭生活論	1	家庭生活を知らない人はいない。この世に生を受けてから死ぬまでの間、誰でも毎日経験している学問、それが家庭生活である。本来、日常知で済んでいたことをなぜわざわざ大学で学ぶのかと言えば、現代人にとって家庭生活が自明のものではなくなってしまったからだ。家庭生活を支える二本の柱、家族も家屋も、いまや個人が解決しなければならない対象として私たちの前に立ちただかっている。いわば人間として生きる上での戦略的拠点—家庭について理解を深めることが家庭生活論の目的である。本科目は、中高教科家庭を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	次の3つのことを目指す。 1. 家庭生活について知ること、即ち、自分自身とは何かを理解すること。 2. 個人の人生に必要な物語を身の回りの日常から紡ぎ出す視点を身につけること。 3. 家庭生活をデザインし、実践するための技法について考えること。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎					◎		
26UHEC2019	色彩学	2	色彩の表示方法を中心として、色と光を科学的に捉えることを学ぶ。プロダクトや空間の色彩を計画するための基礎を習得することを目標とする。本科目は、中高教科家庭を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	色と光を科学的に捉える力をつける。日常的な生活環境における様々なものの色彩を適切な表色系を用いて表現すること、および表色値から色を想像できるようにすることが到達目標である。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎			○		○	○	
26UHEC2020	統計学 I	2	近年、適切にデータ分析を行うことや分析された結果を適切に読み取ることが様々な分野で重要視されるようになってきている。本科目では、記述統計や統計的推測といったデータ分析や統計の基礎となる事項について学習する。また、Excelを用いて単回帰分析やt検定などの基礎的な分析を行う手法について学習する。	データ分析や研究計画の際に必要な標本抽出や母数の推定などの考え方や用語、各種統計量の意味、帰無仮説や有意確率など検定で用いる基本的な概念について理解する。また、データに対して簡単な集計を行い、単回帰分析やt検定といった基礎的な分析を行う方法を身につける。	◎					◎		
26UHEC2021	統計学 II	2	統計は様々な分野で利用されており応用も幅広い。本科目では、発展的な統計手法について学習するとともに、統計の理論を支える数学的背景についても学習を行う。また、統計ソフトを利用した分析や学術論文などに記載されている統計分析結果の読み方についても学習を行う。	多変量解析やノンパラメトリック検定などの基礎の学習ではふれられることが少ない統計手法について分析の考え方や結果の読み取り方を理解し、論文などに記載された分析結果を適切に読み解く能力および自身で解析を行うための知識や能力を身につける。また、統計的推測や検定の理論的背景を理解することを目指す。	◎					◎		
26UHEI2111	アパレル企画論	2	アパレル業界における商品企画について、具体的な進め方、要点を事例の紹介や演習などを交えて、現実のアパレル商品企画を習得する。	アパレル業界での、新規ブランド企画、商品企画、およびセールスプロモーション企画の基礎知識の習得。		◎					◎	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）							
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生き残る”につながる専門性	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
1	2	3	4	5	6	7	8					
26UHEI2112	ドラフティングCAD実習Ⅰ	2	我々が身につける洋服はパターン（型紙）に合わせて生地を裁断し、それらを接合することにより立体を成している。パターンの作図方法を理解することは、洋服の機能性や生産機能を知ることにもつながる。本科目では、衣服を形作るパターンの基礎理論を理解し、ドラフティング（平面製図）によるパターン設計およびアパレルCADの基礎的な操作方法を習得する。	我々が普段身につけている衣服には様々なデザインのものがある。大半のデザインのパターンは原型からの展開で起こすことが可能である。パターンの基礎理論、立体的な衣服を形成するための平面製図におけるパターン展開を学び、意図するデザインのパターン製図を行う力を養い、更にはアパレルCADソフトを用いたパターン作図の方法を習得することを目標とする。		○			◎		◎	
26UHEI2113	ドラフティングCAD実習Ⅱ	2	近年のアパレル業界では、パターン設計用のCADシステムの利用は不可欠である。本科目では、パターンの基礎理論を理解し、アパレルCADシステムを使用した衣服パターンメイキング技能を身につけ、応用する能力を養う。	アパレル業界におけるコンピュータの活用方法を理解するとともに、基礎的なパターンメイキング操作を習得し、更にパターンの展開、工業用パターン作成、グレーディング展開、マーキング、3Dフィッティングまでを行い、オリジナルデザインのパターン作図能力の育成を目標とする。		○			◎		◎	
26UHEI2114	ドレーピング実習	2	ドレーピング（立体裁断）とは、モデルや裁断用ボディに直接生地を当てて、洋服の型を取る技術の名称である。その技術の習得は、簡単なものではないが、作業を通して、人体の特徴を知ることや、身体と衣服の関係を知るうえで、大変都合の良い研究方法である。最終、美しい立体物を創ることが大前提ではあるが、本科目では、その過程に起こる、素材の動きのことや、裁縫道具の使われ方、または技術の名称など、ファッション表現の本流を学び取ることが目的である。	ドレーピング（立体裁断）の習得により、布の特性である経地と緯地の動きの違いを理解する。また、衣服を構成するパーツの形状を確認することで、人体とパーツとの関係性を読み取る。技術の習得より、平面パターンでは創り得ないテクニカル性のあるデザインを創造し、表現できることを目標とする。					◎		◎	
26UHEI2115	V M D 演習	2	ファッションビジネスにおいて、VMD（ヴィジュアルマーチャндаイジング）の果たす役割は重要である。そこで、商品である洋服の知識を深め、店頭でのVMDの考え方や表現方法（ディスプレイ）を学び、商品構成、発想力、表現力、計画性、チームワーク等のスキルを身につける。	ファッションビジネスの現場で、VMDに関して、実践的に活用できる能力を身につけることを目標とする。		○			◎		◎	
26UHEI2116	服飾史	2	古代から現代までの服飾の様式と特徴を理解する。また、服飾の歴史は人間の生活の歴史でもあるため、衣服という身近な存在をとおして、自分がどのような文化的背景をもっているかを学び、人間の生活の理解を深める。	服飾の歴史を学ぶことによって、社会の特徴や文化的な特質について理解を深める。また、文字資料や画像資料の扱いを学び、資料の検索や収集の方法を身につける。	◎					○		
26UHEI3117	現代ファッション論	3	現在のファッションは偶然に行き着いたのではなく、意図的なコトによって誘導されたものである。そのコトが及ぼしたモノへの影響を学び、今後のファッション生活を考える。本科目は、中高教科家庭を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	現代ファッションの流れを理解し、ファッション生活思考の基礎的な素養を身につける。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎							◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）							
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生きながらえること”につながる専門性	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
1	2	3	4	5	6	7	8					
26UHEI2118	染色加工学	2	テキスタイルアドバイザーとしても必要な、衣料品を始めとする繊維製品の染色や加工のされ方、その品質面を踏まえた取り扱いに関わる基礎的な素養を得る。ファッション製品にとって、色柄は重要な要素であるが、色あせや色落ちが起こっては困る。初期性能の維持、トラブルの原因について、原理から「わかる」こと、応用力をつけることを目指す。	なぜ染まるかが、原理から理解できるようになること、そのことで、変退色などのトラブルの原因や防止につながる素養を得ることを目標とする。		◎				◎		
26UHEI2119	染色加工学実験	2	テキスタイルアドバイザーとしても必要な、繊維製品の染色や加工のされ方、その品質面を踏まえた取り扱いに関わることを、本質的な理解につながるよう、実験を通して学ぶ。ファッション製品にとって、色柄は重要な要素であるが、色あせや色落ちが起こっては困る。初期性能の維持、トラブルの原因について、原理から「わかる」こと、応用力をつけることを目指す。	なぜ染まるかが、原理から理解できるようになること、そのことで、変退色などのトラブルの原因や防止につながる素養を得ることを目標とする。		○			◎	◎		
26UHES2226	インテリアテキスタイル概論	2	我々の生活を取り巻く住環境には様々な繊維製品が存在するが、そのひとつとして室内装飾のインテリアテキスタイルを取り上げ、その歴史から製造方法、デザイン、試験方法まで概説し繊維製品全般への幅広い知識を身につけ、物の評価や価値を見分けられる能力の向上を目指す。	多くのインテリアテキスタイル商品が溢れ、物の価値が一律では測れない時代、物づくりを改めて見直すことで、物と人の関係性を取り戻し、物の評価や価値を正しく見極め、生活に役立てられる力を養う。		◎				◎		
26UHEI2120	繊維製品材料学	2	アパレルやインテリアに関わる繊維製品に要求される消費性能を把握し、それらに使用されている糸、布、その他の繊維材料を製造するプロセスから構造・特性・性能などの基礎的知識を修得する。本科目は、中高教科家庭を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	糸や布の構造や性能を理解し、適材適所に応じて活用ができる能力を養い、人が健康で安全に、豊かで快適な生活を過ごすために必要な繊維製品を選択し提供できる知識修得を目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎				◎		
26UHEI2121	繊維製品材料学実験	2	「繊維学」や「繊維製品材料学」で学んだ繊維、糸、布の構造や形態、特性や性能について、実験をとおして実際に視覚的に体験することで、繊維材料の知識をさらに深め、快適な衣生活に必要な実践的能力を身につける。また、テキスタイルアドバイザーとして活躍をする場合に、必要となる試験の原理と測定方法の習得も目的とする。	繊維製品に使用されている糸や布の構造や特性に関する試験の原理と正しい測定法を理解し、実際の現場で実施および応用ができる能力を養う。		○			◎	◎		
26UHEI2122	染色実習	2	染色の様々な技法について、それぞれの特徴や制作方法を習得し、様々な手法で染色物の制作を行う。これら実習を通して染色によるデザインや技法の基礎力を修得し、様々な繊維製品の企画や生産などへの応用につなげることを目的とする。	染色における模様表現の技法の特徴や染色方法を理解する。実習を通して基本的な染色技術を習得し、それらを活かした作品を考案し制作する。		◎				◎	○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）																				
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																				
					1. 多様な文化・複雑化する社会を理解する力		2. “生きること”に尊厳を恐れない姿勢		3. 自他を尊重する姿勢		4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢		5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢		6. 論理的に考え伝える力		7. 新たな価値を創造する力		8. 多様な人々と協働する力						
					知識		姿勢		行動		1		2		3		4		5		6		7		8
26UHEI3123	材料分析法・同実験	3	機器を用いた素材分析の原理と方法を学び、実際に観察・測定、解析をととして理解を深めることによって、目的に応じた分析機器の選択・試料の調整法、機器の使用方法を身につけることを目的とする。さらに測定結果の解析や解釈をととして物質の構造と性質との関連を理解することを目的とする。	構造観察や測定を必要に応じて実施できるようになることを目標とする。すなわち、分析機器の測定原理を理解し、分析目的に応じた機器を選択できることおよび、機器を用いた実験を通して繊維等の高分子物質、繊維加工剤などの鑑別ができるようになることが目標である。	○	◎				◎	◎														
26UHEI2124	消費生活論	2	高度情報化、消費のサービス化、グローバル化など社会経済情勢の著しい変化に伴い、多様化、複雑化する消費者問題の現状と課題を知り「消費者市民社会」の担い手としての資質を修得することを目的とする。	安全で快適な真に豊かな消費生活を営む能力・知識を得ることと併せ、社会の発展と改善に積極的に関与できるような「考え、行動する自立した消費者」としての資質を修得する。	◎													◎							
26UHEI3125	消費科学	3	衣生活を中心に生産者や消費者が関わるモノとサービスの生産、流通、消費・廃棄・循環の実態を学び、生活の豊かさの背景にある様々な問題に対して科学的にアプローチするための手法や考え方を学ぶ。	消費者が望む品質を知り、消費者行動と流通、消費・廃棄・循環の関係性を理解し、生活や社会の問題に対して科学的にアプローチする能力を修得する。テキスタイルアドバイザー資格取得希望者は、生産者と消費者に科学的な内容を分かりやすく伝え、双方の問題と要望を橋渡しする立場として必要な能力を養う。		◎																	◎		
26UHEI2126	アパレル設計生産論	2	量産化されている既製服の設計・生産工程を理解し、その問題点や改良点を考える。	既製服の設計・生産に関する基礎的な知識を習得する。		◎																		◎	
26UHEI3127	アパレル生産実習	3	アパレルの工業生産における商品企画・設計・生産・品質評価・プレゼンテーションの各業務について、実習を通して理解を深め、分業体制でのコミュニケーション能力を身につける。	アパレルの工業生産における各業務について理解し、分業体制で責任感を持った行動を取ることができるようになること、分業体制における情報伝達の工夫や努力ができるようになることを目標とする。		○					○													◎	
26UHEI2128	アパレル生理衛生論	2	様々な環境下における温熱的、衛生的に快適で健康で安全な衣服や衣生活についての理解を深めることを目的とし、衣服は多くの機能を併せ持つが、その中で着心地・快適性は人間と関わってはじめて評価されるものであることを学ぶ。	衣服は色やデザインなど審美的な要素が重要視されがちであるが、衣服の機能はそれだけではない。本授業では、人間の最も身近な環境である衣服について、様々な環境において求められる衣服の機能を考え、健康で安全に快適な衣生活を実践できる能力を修得する。		◎																	◎		
26UHEI3129	アパレル生理衛生実験	3	我々が今後も温熱的、衛生的に快適で健康な衣服や衣生活を形成するためには、衣服の特性や性能がヒトに及ぼす影響やヒトが感じる着心地、快適性を正確に評価し、その結果を研究や開発に活かすことが重要になる。その評価方法を習得し、「アパレル生理衛生論」で学んだ知識をさらに深め、快適で健康的な衣服の研究・開発の基礎的実践力を身につける。	衣服がヒトに及ぼす影響や、ヒトが衣服を着用して感じる着心地、快適性を評価する方法を習得する。さらに、対象となるヒトの基本特性と心理・行動・生理反応との関係についても実践的に学び、人間にとって温熱的、衛生的に快適で健康な衣服の条件を理解する。		○																	◎	◎	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）									
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 多様化・複雑化する社会を理解する力	2. “生きること”につながる専門性	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力		
					知識		姿勢			行動				
1	2	3	4	5	6	7	8							
26UHEI3130	アパレルクリエイティブ実習	3	後期に開講する卒業基礎演習に繋がる制作系研究の入門となる科目である。領域の授業で学修した内容と研究を関連付ける能力、社会に発信する能力を養う。デザインに込めたテーマを明確にし、クリエイティブな演出を伴った効果的なコミュニケーションスキルの向上、また、デジタル技術を活用したプレゼンテーションの方法を学び、実際のファッション業界で役立つスキルを修得することを目指す。	オリジナルデザインの衣服制作をすると共に、IllustratorやPhotoshop、PowerPointを活用して、プレゼンテーションシートを作成する。それらを用いてデザインプロセス、アイデアやコンセプトの説明を行い、衣服制作の技術およびデジタル技術を活用したプレゼンテーションスキルを身につけることを目標とする。		○			○			◎		
26UHEI3131	アパレルリサーチ実習	3	後期に開講する卒業基礎演習に繋がる調査系・実験系研究の入門となる科目である。領域の授業で学修した内容と研究を関連付ける能力、社会に発信する能力を養う。日常生活や社会、地球環境の様々な現状や課題の理解を深め、複数人で協同しながら取り組むテーマを見つけ、解決策を導き出すためのプロセスを実践し習得する。	学生主体での学びを通して、我々の生活や社会、地球環境が豊かになる研究の意義や魅力を理解する。文献検索や実態調査、客観的に評価・分析するための手法など、調査系・実験系研究の基礎的な手法を修得し、自ら研究を進めていくことができる能力と、取り組んだ研究内容を分かりやすく伝えるプレゼンテーションスキルを身につけることを目標とする。		○		◎	○			◎		
26UHEI3132	テキスタイルデザイン実習	3	テキスタイルデザインを成り立たせる要素である色や形はもとより、素材や技法を主体的な体験を通して理解することで、デザインの基礎力を高める。また、体験的なアプローチにより導かれた発見や感動が、表現する力の核となる。	繊維、糸、布に関わる素材体験や技法演習を通じて、テキスタイルデザインの作品を構想し制作できるようになる。							◎		◎	
26UHEI3133	テキスタイルコンピュータ実習	3	テキスタイルデザインソフトを使用してデザインを行い、テキスタイルに要求されるデザインの特徴について学ぶ。ファッション業界の現場で即戦力となりうる人材を育成する。	テキスタイルデザインソフトを自在に操作することのできる技能を身につける。先染め織物、織り方を工夫して設計をすることができる。プリント染色の図案を描くことができ、製品の種類や大きさに合わせたデザインができる。企画書を作成し、テキスタイルの特徴や商品化イメージを明確に伝えることができる。							◎		◎	
26UHEI3134	ファッションデザイン実習	3	ファッションデザインという行為について考える。ファッションデザインとは、スタイル画の中だけで行う行為ではなく、実際にモノをどう観て、どう形に整えていくのかという総合的な行為である。その表現方法として、シーチングでジャケットを一着組み上げる。そのモデルの基本の考えとなるものは、情報である。収集した情報を基に、ジャケットを提案する。この流れを具体的にこなしていき、「ファッションデザインとは？」の答えを導き出す。	ファッション情報収集の方法をつかみ、そこからデザインへの導き方を習得する。また、それらを具体的な形にする方法として、パターン・縫製があることを理解する。結果、アパレル産業の機能の理解へとつなげ、ファッション産業をより深く理解できるようにする。		○				◎			◎	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）								
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					知識		姿勢			行動			
					1	2	3	4	5	6	7	8	
26UHEI3135	被服心理学	3	被服が人の心理や社会的行動に与える影響を体系的に理解する。特に、被服が個人のアイデンティティ、自己表現、社会的ステータスにどのように関わるかを探求し、実生活での応用を目指す。	被服が個人の心理状態や社会的認識に与える影響を批判的に分析できる能力を身につける。また、ファッションや被服の選択が自己表現や他者とのコミュニケーションにどのように影響を与えるかを理解し、それを応用して、専門的な場面や日常生活での衣服選択において、より意識的かつ戦略的な決定を行えるようになる。	○		○					○	
26UHEI3136	アパレルDX演習	3	CADやテキスタイルデザイン、着装シミュレーションを総合的に活用し、デジタル技術を駆使したアパレル製品の開発とデザインプロセスの効率化を実現するスキルを習得する。	デジタル技術を活用して、アパレル製品のデザインから制作までを一貫して行うスキルを習得し、創造性と効率性を両立した新しいデザインプロセスを実践できるようになる。				○			○	○	
26UHEC3022	生活環境総合演習	3	各領域や分野での専門的な学びを踏まえた上で、あらためて生活環境学全体を理解し実践することを目的とする。	各領域で学んだ専門的知識や技術を応用する。グループワークによって、違う専門領域の学生と協働しながら、複合的な課題に取り組むことができる。		◎	○		○	○	◎	○	
26UHES3227	環境共生概論	3	近年、環境保全の重要性が高まっているが、環境を守ることがわれわれの生活の豊かさとう関係するのといった根本的な問いに向き合う機会はそれほど多くない。本講義では、環境に関連する基本的な事柄を学んだ上で、われわれが生活環境の改善に取り組んでいく際に、どのように環境問題と関わっていくべきか議論・考察することを目的とする。本科目は、中高教科家庭を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	環境問題は独立した問題ではなく、生活に密着した問題であるということを理解し、その上で生活の利便性と環境負荷のバランスをとった生活の提案や改善を議論していくための知識や方法論を修得する。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	◎	○			○			
26UHEC3023	保育学	3	子どもを育てることは社会全体の責任であり、その基礎となる正しい医学的・生物学的・社会的知識を身につける。子どもの健全育成に必要な環境や人的援助についての理解を深め、教養ある女性保育者としての常識的な判断力を養う。本科目は、中高教科家庭を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	保育とは何かを理解し、子どもの心身の発達を知り、子どもへの理解を深め、保育者としての力量を養う。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎				◎			
26UHEC3024	調理学実習	3	食品の調理特性を理解し、調理操作を行い、栄養・嗜好を考慮した食品の組み合わせによる食事の提供、食品衛生的な取り扱い方法、作業の能率化、供食形態、食卓準備等を考え、健康的で楽しい食生活が計画できることを目的とする。本科目は、中高教科家庭を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	適切な調理操作を習得する。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		○			◎	◎			

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）								
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生きること”につながる専門性	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力	
					知識		姿勢			行動			
1	2	3	4	5	6	7	8						
26UHEC4025	食 物 学	4	食物の栄養成分が私たちの生命活動の維持や健康の保持に対してどのように関与し、なぜ食物の適切な摂取が必要であるかについて理解し、また健全な食生活を営むための基礎的な知識も修得する。本科目は、中高教科家庭を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	学生は、食生活に栄養の知識を活かし、健康の保持・増進、疾病の予防が図れるように栄養の役割について理解する。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎				◎			
26UHES4228	生 活 美 学	4	日常生活の事柄やモノは、合理的・科学的に捉えられる一方で、趣味や好み、快適さのような精神的な決まりのつけ方によって落ち着きどころを得ている。この講義では、後者の立場から生活環境におけるさまざまな価値を発掘し、理解する。これらを通して、日常生活におけるプリミティブな思考と感性の実存性や豊かさを明らかにする。	総合的で有機的な日常生活の美学的探求のノウハウとともに、生活を探求することの喜びと輝き、豊かさを論じることができる人間性を身につける。関連情報について関心を高め、感性を磨き、生活環境を知識や理解のみならず五感で感じるようになることを期待する。	◎						◎		
26UHEI4137	テキスタイルアドバイザー実習	4	テキスタイルアドバイザーとして、どのように活躍できるかについて、学外実習を通じて実社会の現状を体得し、自覚を深めるとともに視野を広めていく。	1級TAの資格取得者として、社会でどのように活躍できるかの理解を深めることを目標とする。			○		◎		○		◎
26UHEC3026	卒業基礎演習	3	4年次の「卒業研究」を行うにあたって、その基礎を身につけることを目的とする。	「卒業研究」の基礎となるような知識、技術、研究対象へのアプローチの手法などを習得することを目標とする。	○			◎	◎	◎	◎	◎	○
26UHEC4027	卒業研究	4	大学での教育・研究の総仕上げとして、生活環境学における各分野の課題を発掘し、調査・研究を遂行し、結論に到達する過程を体験し、問題提起と課題解決の方法および結果の発表の仕方を身につける。	情報の収集・整理の能力、分析・考察の能力、提案力・創造力を高め、総合的な真の実力を身につける。	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○
26UHES2229	生活文化演習 I	2	生活文化を理解するためには、学術的な方法で調べ、分析することが有効である。また、調査分析した内容を伝えるためには、その上で自分なりに意見をまとめ、文章や図表で表現することが求められる。この演習では、生活文化を理解するために必要な学術的な思考方法、調査方法、分析方法、文章表現の基礎を学ぶ。	生活文化の理解に必要な調査方法を学び、基礎的な学術的文章を読み、学術的なルールに従ってレポートにまとめる。	○				○	◎	◎		
26UHES3230	生活文化演習 II	3	身近な生活の中で、役立つ優れたデザインについて考える。	学生はデザインを構成するさまざまな要素を発見し、分析し、優れたデザインの美的構造を理解する。	○				○	◎	◎		
26UHES3231	生活文化演習 III	3	暮らしの中のモノについて理解を深める。そのために、普通の暮らしの中で実際に使われた生活財の背景にある生活文化を読み解く。また、近現代の名作といわれる家具・プロダクト製品について、その時代背景と作者の意図を読み解く。	暮らしの中で使われたモノおよび近現代の名作といわれるモノについて、ある目的に対して調査・分析をおこなう方法を修得する。さらに、そこから得た結果を考察し、自己の考えをまとめ、それらについて記述する方法を修得する。	○				○	◎	◎		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）								
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					知識		姿勢			行動			
					1	2	3	4	5	6	7	8	
26UHES3232	景 観 論	3	景観の分析、保全、整備、創造のために要求される基本的考え方および具体的なデザイン技法、法律などの基礎知識を習得すること。また日本各地や世界各国の景観や街並みを紹介していくことで、建築物だけでなく都市環境のデザインや街づくりへ視野を広げる。	風景、景色、景観という視点から生活や建築を理解できるようにする。	◎						◎		
26UHES3233	生活デザイン論	3	学生は講義を通じて、生活を営む上で必要な要素としてのモノ・行為を取り出すとともに、それらを可能にする生活デザインの特性と機能について考える。	学生は講義を通じて次の2つの目標到達に取り組む。 1. 学生はモノ（ものづくり）のデザインとコト（仕組み）のデザインが生活の中で果たす役割を知る。 2. そのうえ、優れたデザインの特徴とは何かを考え、生活デザインの企画実践につなげる基本的素養とする。		◎						◎	
26UHES3234	阪神間文化論	3	私たちが学ぶ、「阪神間」という地域では、「阪神間モダニズム」という用語が言及されることも少なくなく、この「モダニズム」が一つの特性となっている。「阪神間モダニズム」のなかで展開されてきた芸術・音楽・ファッション・生活スタイルなどを、阪神間モダニズムを象徴する建築でもある甲子園会館（旧甲子園ホテル）のような実際に現存する「阪神間」という空間において、フィールドワークを含めながら学びたい。	生活環境学を専門とする私たちが、身近な地域の生活環境を学ぶだけでなく、同時に「モダニズム」とは何かということを考えていくことによって、それぞれの創作にいかしていきたい。単なる地域の学習ではなく、これからの創造のための学びを目標としている。	◎						◎		
26UHES3235	視覚文化論	3	私たちが取り巻く様々な視覚文化を理解する。	近代以降の社会は、視覚偏重の社会と言われる。あらゆる物事において、視覚的要素は、ますます重視されている。タイポグラフィから映像に至るまで、いわゆる視覚文化（ヴィジュアル・カルチャー）と呼ばれる領域について、幅広く学んでいく。	◎						◎		
26UHES3236	比較地域文化論	3	日本各地や世界各国の住居・集落・まちを中心とした「集まって住む暮らし」に見る生活文化について横断的に学ぶ。	日本各地や世界各国の地域の暮らしを紹介して、比較することで、生活環境を学ぶ上で重要となる生活文化の地域性について深く理解して視野を広げることが目標とする。	◎		◎					○	
26UHES4237	環境リスク学	4	現代社会では暮らしを豊かにするために様々な製品や技術が開発されているが、時としてこれらは人間の健康や生活に悪影響を与えるリスクを有している。安全・安心で、かつ豊かな生活を提案していくには、これらのリスクを適切に評価・管理していくことが必要である。本講義では、そのために必要な知識や方法論について学ぶ。	政策決定で用いられているリスク評価およびリスク管理の方法論について知識をつけ、安全で安心な生活環境を提案する能力を養うことを目的とする。	◎	◎				○	○		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）								
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生き残る”につながる専門性	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力	
					知識		姿勢			行動			
1	2	3	4	5	6	7	8						
26UHES4238	生活調査演習	4	人の心理と行動は生活環境を考えていく上で非常に重要な要素であるが、形あるものではないため直接物理・化学的に計測することはできない。しかしながら、適切な方法で客観的なデータに落とし込み定量的に分析していくことで様相を探っていくことは可能である。本科目では、そのための調査計画や手法について学ぶ。	人間の心理や行動を客観的に評価し分析していくために必要な調査計画や分析手法を理解し、研究を進めていく際にこれらを使いこなせるようになることを目的とする。	◎	○					◎		
26UHES4239	空間デザイン原論	4	近代以降、建築の主題は「建築」から、建築が内包する「空間」に移行し現代の建築空間のものとなっている。近代の建築家が、空と大地の間に人間の「空間」を開くために提示した理念・方法と作品の特徴について学び、それらの関係を理解する。	近代建築は、イギリスの産業革命が欧米諸国に拡大する過程で発祥・発展し、日本をはじめ世界へと拡散した。そこには、過去の慣習から自由になった人々の生活要求に沿った合理的で健康な生活空間が望まれた。組積造から鉄筋コンクリート造や鉄骨造への移行はそれを後押しした。建築家が近代の生活要求に応えるために提示した空間デザインが現代の「もと」となっている理由について理解する。	○	◎					◎		
26UHES4240	日本デザイン史	4	日本は開国以降、西洋の仲間入りを目ざしたが、それは政治や経済の問題であるとともにデザインの問題でもあった。西洋化、近代化による生活や価値観の変化は、そのまま物のデザインとなって現われた。また、デザイナーたちは、物の形を通して日本のアイデンティティを模索した。この講義では、日本における近代デザインについて紹介しながら、今日の社会にも直接的につながる問題を歴史的に考えていく。	日本におけるモダンデザインを代表する作品とデザイナーを知ることを通して、デザインという視点から、日本における近代について理解し、日本の現在の社会を把握するとともに、これから先の日本の社会とデザインの関わりを、自分なりに考えることができるようになる。	◎						◎		
26UHEJ2336	建築計画学Ⅰ	2	建築の計画・設計には、建築の種類による独自の特性に関する知識や理論を学ぶ必要があり、ここでは住宅・集合住宅を設計する上で必要となる計画理論について学ぶ。	住宅・集合住宅を中心として、建築計画上で重要となる物の寸法の決定要因や平面計画・動線計画の技法、そしてその背景となる考え方などについて修得することを目標とする。	○	◎					◎		
26UHEJ3337	建築計画学Ⅱ	3	建築の計画・設計には、建築の種類による独自の特性に関する知識や理論を学ぶ必要があり、ここでは学校・商業施設・宿泊施設・オフィス等の計画理論について学ぶ。	住宅以外で一般の人々に比較的なじみが深い学校・商業施設・ホテル・事務所建築などを計画する上で必要となる建築上の特徴的な事項について修得することを目標とする。		◎					◎		
26UHEJ3338	世界建築史	3	世界のいろいろな地域や時代の建物が、どのような「建築」としての特徴を持っているのか、そして「建築」という見方を生み出した西洋の歴史・文化が、どのような建築を作ってきたのか、これらの概要を理解することを目的とする。	「建築」という見方で世界の建物をみた時に浮かび上がる様々な建築のあり方を理解し、「建築」という見方を生んだ西洋の「建築」はどんな建築を作ってきたのかを、歴史と意匠と様式を通して理解する。	○	◎					◎		
26UHEJ3339	日本建築史	3	日本建築の時間的な展開と、それぞれの時代の特徴について理解することを目的とする。	日本建築の様式的特徴を理解する。具体的には時代による意匠や構造の違いを理解することを目標とする。	○	◎					◎		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）							
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生きること”につながる専門性	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
1	2	3	4	5	6	7	8					
26UHEJ4340	建築材料学	4	建築との関わりをふまえた上で、心理面・環境面を考慮した材料の選択を学ぶことで、材料の要求性能を理解する。	建築材料の要求性能を理解し、材料選択にあたって適切な判断をする力を養うことを目標とする。		◎				◎		
26UHEJ3341	環境計画	3	適切な室内環境のあり方と、自然環境を利用しながら機能性を快適性を維持する建築空間のあり方を理解する。	室内の環境計画にあたって重要となる環境工学の考え方を理解し、人にも環境にも優しい建築空間の工夫を提案する能力を養う。		◎	○			◎		
26UHEJ4342	福祉住環境概論	4	身体や感覚器官にハンディキャップを持つ人が住み慣れた環境で自立生活を送るために、住環境の整備が社会全体の課題となっている。本科目では安全・安心で健康的な住環境のあり方について学ぶ。	自立生活のための住環境整備のあり方を理解した上で、自己や他者の暮らしの不便・不自由に気づいて住環境を整備する力を養い、住まいの設計やまちづくりにおける福祉デザインへの応用につなげる。	◎		◎			○		
26UHEJ2343	まちづくり論 I	2	本科目は、まちや社会における現状や課題について理解し、まちづくりに関する基本的な知識を身につけることで、まちづくりを実践しうる力を養うことを目的としている。	・まちや社会における現状や課題を理解し、説明できる。 ・まちづくりの主体や手法など基本的な知識を理解し、説明できる。	○	◎	○			○		○
26UHEJ3344	まちづくり論 II	3	まちづくりについて、基礎的、および、応用的な内容を学習し、その理念や意義、これからのまちづくりのあり方等について理解を深める。	まちづくりについて、実践し得る応用的な知識を習得する。	○	◎	○			○		○

令和8年度入学生用カリキュラムマップ

【生活環境学科】

【生活文化・デザイン領域】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）								
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					1. 多様化・複雑化する社会を理解する力	2. “生きること”につながる専門性	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力	
					知識		姿勢		行動				
		1	2	3	4	5	6	7	8				
26UHES1201	環境共生概論	1	近年、環境保全の重要性が高まっているが、環境を守ることがわれわれの生活の豊かさとう関係するのかといった根本的な問いに向き合う機会はそれほど多くない。本講義では、環境に関連する基本的な事柄を学んだ上で、われわれが生活環境の改善に取り組んでいく際に、どのように環境問題と関わっていくべきか議論・考察することを目的とする。本科目は、中高教科家庭を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	環境問題は独立した問題ではなく、生活に密着した問題であるということを理解し、その上で生活の利便性と環境負荷のバランスをとった生活の提案や改善を議論していくための知識や方法論を修得する。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	◎	○				○		
26UHES1202	グラフィックデザイン基礎実習	1	グラフィックデザインの手法を用いて作品を制作しながら、デザイン概念を理解する。	様々な表現に活かせるグラフィックデザインの基本スキルを身につけるとともに、デザイン全般における基礎的な技術力・表現力を修得する。		○		○				◎	
26UHES1203	デザイン技法 I	1	実際に手を動かしながら、多種多様な素材に触れ、その特性を理解し、素材を加工するスキルを学ぶ。	様々な素材の特性を理解した上で、その特性に合致した作品を考案し表現する基礎的な技術を学ぶ。		○				◎		◎	
26UHES2204	デザイン技法 II	2	プロダクトデザインの考え方を理解し、そのプロセスに沿って作品を考え表現するスキルを学ぶ。	様々な表現技法の特性を理解し、スキルを学びながら作品を考案し制作する。また作品をプレゼンテーションするためのスキルを向上させる。		○				◎		◎	
26UHES1205	インテリア・空間デザイン実習 I	1	インテリア、住宅、店舗などの設計において、空間感覚を身につけることが大切である。デザイン意図を他者に伝えるための手段としてモデルや図面、スケッチは重要な手段である。この科目では、設計の面白さや楽しさを感じながら基礎知識と表現技術を学び、モデル、図面、スケッチ、スケール、プレゼンテーションについての理解を深めることを目標としている。	インテリア・空間の設計実習において、各自が考案した生活空間をモデル、図面（平面、断面、立面図等）、スケッチやパースで表現できる技術を習得する。		○			◎	◎			
26UHES2206	インテリア・空間デザイン実習 II	2	生活行為のベースとなる豊かな生活空間について学んだうえで、デザインコンセプトの整理、デザインワーク、空間デザイン、図面や模型、スケッチなどの表現を通じて、基本的なインテリア・空間設計のプロセスを習得する。	日常生活における人々のライフスタイルやモノやコトのデザインを深く考察するとともに、インテリア・空間デザインの考え方を理解し、そのプロセスに沿って、コンセプト立案、デザイン、設計、モデル制作、プレゼンテーションの技術を習得する。		○				◎	◎		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）								
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生きつなげる専門性”	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力	
					知識		姿勢			行動			
		1	2	3	4	5	6	7	8				
26UHES3207	インテリア・空間デザイン実習Ⅲ	3	複数の人たちとモノと空間の関係を調査・分析・デザインすることで、より豊かな生活空間を提案する能力を養う制作を通じて、空間の設計から素材の特性や加工方法までトータルに理解する。	日常生活における人・物・空間の関係についてより深く考察するとともに、インテリアデザイン・空間デザインの考え方を理解し、そのプロセスに沿って、調査、調査資料作成、アイデア展開、モデル制作、プレゼンテーションの技術を習得する。			○			◎	◎		
26UHES1208	生活文化演習Ⅰ	1	生活文化を理解するためには、学術的な方法で調べ、分析することが有効である。また、調査分析した内容を伝えるためには、その上で自分なりに意見をまとめ、文章や図表で表現することが求められる。この演習では、生活文化を理解するために必要な学術的な思考方法、調査方法、分析方法、文章表現の基礎を学ぶ。	生活文化の理解に必要な調査方法を学び、基礎的な学術的文章を読み、学術的なルールに従ってレポートにまとめる。	○					○	◎	◎	
26UHES2209	生活文化演習Ⅱ	2	身近な生活の中で、役立つ優れたデザインについて考える。	学生はデザインを構成するさまざまな要素を発見し、分析し、優れたデザインの美的構造を理解する。	○					○	◎	◎	
26UHES2210	生活文化演習Ⅲ	2	暮らしの中のモノについて理解を深める。そのために、普通の暮らしの中で実際に使われた生活財の背景にある生活文化を読み解く。また、近現代の名作といわれる家具・プロダクト製品について、その時代背景と作者の意図を読み解く。	暮らしの中で使われたモノおよび近現代の名作といわれるモノについて、ある目的に対して調査・分析をおこなう方法を修得する。さらに、そこから得た結果を考察し、自己の考えをまとめ、それらについて記述する方法を修得する。	○					○	◎	◎	
26UHES2211	インテリアテキスタイル概論	2	我々の生活を取り巻く住環境には様々な繊維製品が存在するが、そのひとつとして室内装飾のインテリアテキスタイルを取り上げ、その歴史から製造方法、デザイン、試験方法まで概説し繊維製品全般への幅広い知識を身につけ、物の評価や価値を見分けられる能力の向上を目指す。	多くのインテリアテキスタイル商品が溢れ、物の価値が一律では量れない時代、物づくりを改めて見直すことで、物と人の関係性を取り戻し、物の評価や価値を正しく見極め、生活に役立てられる力を養う。				◎			◎		
26UHEC2019	色彩学	2	色彩の表示方法を中心として、色と光を科学的に捉えることを学ぶ。プロダクトや空間の色彩を計画するための基礎を習得することを目標とする。本科目は、中高教科家庭を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	色と光を科学的に捉える力をつける。日常的な生活環境における様々なものの色彩を適切な表色系を用いて表現すること、および、表色値から色を想像できるようにすることが到達目標である。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎				○		○	○	
26UHES2212	景観論	2	景観の分析、保全、整備、創造のために要求される基本的考え方および具体的なデザイン技法、法律などの基礎知識を習得すること。また日本各地や世界各国の景観や街並みを紹介していくことで、建築物だけでなく都市環境のデザインや街づくりへ視野を広げる。	風景、景色、景観という視点から生活や建築を理解できるようにする。	◎						◎		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）								
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生き残る”につながる専門性	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力	
					知識		姿勢			行動			
1	2	3	4	5	6	7	8						
26UHES2213	生活デザイン実習Ⅰ	2	個人と、身体の一部としての物の関係をデザインすることで、より豊かな生活を提案する能力を養う。商品企画デザインの考え方や見方を理解する。	パッケージデザインは今や商品のメッセージそのものといえるほどに重要な役割をはたしている。また、商品を包む・運ぶという物理的な機能も担っている。パッケージデザインについての調査・企画・提案をとおして、その魅力とコミュニケーションデザインとしての重要性を理解するとともに、アイデアを形にする技術力、人に伝える表現力を修得する。		○			◎			◎	
26UHES2214	生活デザイン実習Ⅱ	2	個人と、身体を包む物との関係をデザインすることで、より豊かな生活を提案する能力を養う。実素材による制作を通じて、素材の特性や加工方法を理解する。	実素材を使用した実物をデザイン・制作することで、構造・強度を踏まえた立体構造を理解するとともに、各テーマにおける人と物との関わりをより深く考察する。企画、デザイン、制作のプロセスを通じて、プロダクトデザインの基礎を習得する。制作を通じて、素材の特性について理解を深めるとともに、加工方法と工具などの使い方を習得する。		○			◎			◎	
26UHES2215	生活デザイン論	2	学生は講義を通じて、生活を営む上で必要な要素としてのモノ・行為を取り出すとともに、それらを可能にする生活デザインの特性と機能について考える。	学生は講義を通じて次の2つの目標達成に取り組む。 1. 学生はモノ（ものづくり）のデザインとコト（仕組み）のデザインが生活の中で果たす役割を知る。 2. そのうえ、優れたデザインの特徴とは何かを考え、生活デザインの企画実践につなげる基本的素養とする。		◎						◎	
26UHEC2020	統計学Ⅰ	2	近年、適切にデータ分析を行うことや分析された結果を適切に読み取ることが様々な分野で重要視されるようになってきている。本科目では、記述統計や統計的推測といったデータ分析や統計の基礎となる事項について学習する。また、Excelを用いて単回帰分析やt検定などの基礎的な分析を行う手法について学習する。	データ分析や研究計画の際に必要な標本抽出や母数の推定などの考え方や用語、各種統計量の意味、帰無仮説や有意確率など検定で用いる基本的な概念について理解する。また、データに対して簡単な集計を行い、単回帰分析やt検定といった基礎的な分析を行う方法を身につける。	◎						◎		
26UHEC2021	統計学Ⅱ	2	統計は様々な分野で利用されており応用も幅広い。本科目では、発展的な統計手法について学習するとともに、統計の理論を支える数学的背景についても学習を行う。また、統計ソフトを利用した分析や学術論文などに記載されている統計分析結果の読み方についても学習を行う。	多変量解析やノンパラメトリック検定などの基礎の学習ではふれられることが少ない統計手法について分析の考え方や結果の読み取り方を理解し、論文などに記載された分析結果を適切に読み解く能力および自身で解析を行うための知識や能力を身につける。また、統計的推測や検定の理論的背景を理解することを目指す。	◎						◎		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）								
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生き残る”につながる専門性	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力	
					知識		姿勢			行動			
1	2	3	4	5	6	7	8						
26UHES2216	阪神間文化論	2	私たちが学ぶ、「阪神間」という地域では、「阪神間モダニズム」という用語が言及されることも少なくなく、この「モダニズム」が一つの特性となっている。「阪神間モダニズム」のなかで展開されてきた芸術・音楽・ファッション・生活スタイルなどを、阪神間モダニズムを象徴する建築でもある甲子園会館（旧甲子園ホテル）のような実際に現存する「阪神間」という空間において、フィールドワークを含めながら学びたい。	生活環境学を専門とする私たちが、身近な地域の生活環境を学ぶだけでなく、同時に「モダニズム」とは何かということを考えていくことによって、それぞれの創作にいかしていきたい。単なる地域の学習ではなく、これからの創造のための学びを目標としている。	◎						◎		
26UHES2217	視覚文化論	2	私たちを取り巻く様々な視覚文化を理解する。	近代以降の社会は、視覚偏重の社会と言われる。あらゆる物事において、視覚的要素は、ますます重視されている。タイポグラフィから映像に至るまで、いわゆる視覚文化（ヴィジュアル・カルチャー）と呼ばれる領域について、幅広く学んでいく。	◎						◎		
26UHES2218	比較地域文化論	2	日本各地や世界各国の住居・集落・まちを中心とした「集まって住む暮らし」に見る生活文化について横断的に学ぶ。	日本各地や世界各国の地域の暮らしを紹介して、比較することで、生活環境を学ぶ上で重要となる生活文化の地域性について深く理解して視野を広げること目標とする。	◎		◎						○
26UHES2219	フィールド・サーヴェイ実習	2	積極的に街へ出かけ、フィールドワークを行うために、その技法や方法と、その時に必要となる基本的な考え方について講義する。	方向感覚が研ぎ澄まされ、地図なしでどこでも簡単に歩けるようになる。		○	○		◎	○			○
26UHES3220	環境リスク学	3	現代社会では暮らしを豊かにするために様々な製品や技術が開発されているが、時としてこれらは人間の健康や生活に悪影響を与えるリスクを有している。安全・安心で、かつ豊かな生活を提案していくには、これらのリスクを適切に評価・管理していくことが必要である。本講義では、そのために必要な知識や方法論について学ぶ。	政策決定で用いられているリスク評価およびリスク管理の方法論について知識をつけ、安全で安心な生活環境を提案する能力を養うことを目的とする。	◎	◎			○	○			
26UHES3221	生活調査演習	3	人の心理と行動は生活環境を考えていく上で非常に重要な要素であるが、形あるものではないため直接物理・化学的に計測することはできない。しかしながら、適切な方法で客観的なデータに落とし込み定量的に分析していくことで様相を探っていくことは可能である。本科目では、そのための調査計画や手法について学ぶ。	人間の心理や行動を客観的に評価し分析していくために必要な調査計画や分析手法を理解し、研究を進めていく際にこれらを使いこなせるようになることを目的とする。	◎	○					◎		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）								
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生きつなげる専門性”	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力	
					知識		姿勢			行動			
		1	2	3	4	5	6	7	8				
26UHES3222	空間デザイン原論	3	近代以降、建築の主題は「建築」から、建築が内包する「空間」に移行し現代の建築空間のものとなっている。近代の建築家が、空と大地の間に人間の「空間」を開くために提示した理念・方法と作品の特徴について学び、それらの関係を理解する。	近代建築は、イギリスの産業革命が欧米諸国に拡大する過程で発祥・発展し、日本をはじめ世界へと拡散した。そこには、過去の慣習から自由になった人々の生活要求に沿った合理的で健康な生活空間が望まれた。組積造から鉄筋コンクリート造や鉄骨造への移行はそれを後押しした。建築家が近代の生活要求に応えるために提示した空間デザインが現代の「もと」となっている理由について理解する。	○	◎					◎		
26UHES3223	デザインリサーチ実習	3	調査の手法と、エディトリアルデザインの基本スキルを習得する。	物や空間をデザインしていくにも、社会的な問題や、その解決法の前例を調べる必要がある。また、デザインしたものは、適切な相手に存在が伝えられて、はじめて世の中に広まっていく。文献調査、観察法をはじめとした様々な調査手法と、グラフィックデザインやエディトリアルデザインを駆使した伝達方法を習得する。	○					◎		◎	
26UHES3224	生活美学	3	日常生活の事柄やモノは、合理的・科学的に捉えられる一方で、趣味や好み、快適さのような精神的な決まりのつけ方によって落ち着きどころを得ている。この講義では、後者の立場から生活環境におけるさまざまな価値を発掘し、理解する。これらを通して、日常生活におけるプリミティブな思考と感性の実存性や豊かさを明らかにする。	総合的で有機的な日常生活の美学的探求のノウハウとともに、生活を探求することの喜びと輝き、豊かさを論じることができる人間性を身につける。関連情報について関心を高め、感性を磨き、生活環境を知識や理解のみならず五感で感じるようになることを期待する。	◎						◎		
26UHES3225	日本デザイン史	3	日本は開国以降、西洋の仲間入りを目ざしたが、それは政治や経済の問題であるとともにデザインの問題でもあった。西洋化、近代化による生活や価値観の変化は、そのまま物のデザインとなって現われた。また、デザイナーたちは、物の形を通して日本のアイデンティティを模索した。この講義では、日本における近代デザインについて紹介しながら、今日の社会にも直接的につながる問題を歴史的に考えていく。	日本におけるモダンデザインを代表する作品とデザイナーを知ることを通して、デザインという視点から、日本における近代について理解し、日本の現在の社会を把握するとともに、これから先の日本の社会とデザインの関わりを、自分なりに考えることができるようになる。	◎						◎		
26UHEC3022	生活環境総合演習	3	各領域や分野での専門的な学びを踏まえた上で、あらためて生活環境学全体を理解し実践することを目的とする。	各領域で学んだ専門的知識や技術を応用する。グループワークによって、違う専門領域の学生と協働しながら、複合的な課題に取り組むことができる。		◎	○			○	○	◎	○
26UHEJ2345	暮らしの人間工学	2	本科目の目的は、暮らしの中のモノや空間と人との関係を人間工学的視点で捉え、適切なデザインを理解することにある。本科目は、中高教科家庭を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	モノや空間を対象に、それらを使う人の特性から危険や不安を発見する観察力を身につけ、人間工学の視点で安全・安心・快適なデザインを提案する素養を修得する。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎			◎			◎		
26UHEJ3346	構造力学Ⅰ	3	建築物の設計において最も基礎となる、構造物の力学に関する理論を基礎から体系的に理解する。	建築設計における力学的な考え方の基礎を習得する。		◎					◎		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）							
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生きつなげる専門性”に尊重する姿勢	3. 自他を恐れず挑戦する姿勢	4. 失敗を恐れない姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
1	2	3	4	5	6	7	8					
26UHEJ3347	構造力学 I 演習	3	「構造力学 I」で習得する構造物の力学に関する理論を、例題の解説と演習問題を解くことでより深く理解する。	建築設計において必要な力学的な考え方を習得するための演習問題を自力で解けること。		○			◎	◎		
26UHEJ3348	建築施工	3	建築工事の発注から完成に至るまでの各段階の内容について、その概要を論述する。これを通じて一連の建築施工の流れとその技法を理解する。	建築（木造、鉄骨構造、鉄筋コンクリート造）に関する企画、施工、竣工、維持管理までの流れについて理解すること。		◎				◎		
26UHEJ3349	建築法規	3	秩序ある街や安全で安心して住める建物をつくるために、各種の建築法規があるが、この講義では建築法規のうち主体となっている建築基準法を中心に、どのような規制・誘導が行われているのかを学ぶ。また併せて、建築に関わるものとしての技術者倫理について考える。	都市や建物をコントロールしている法律について理解を深めるとともに、主として住宅を設計したり購入する際に役立つ建築法規（ルール）を学ぶ。	◎	○				◎		
26UHEC1018	家庭生活論	1	家庭生活を知らない人はいない。この世に生を受けてから死ぬまでの間、誰でも毎日経験している学問、それが家庭生活である。本来、日常知で済んでいたことをなぜわざわざ大学で学ぶのかと言えば、現代人にとって家庭生活が自明のものではなくなくなってしまったからだ。家庭生活を支える二本の柱、家族も家屋も、いまや個人が解決しなければならぬ対象として私たちの前に立ちはだかっている。いわば人間として生きる上での戦略的拠点―家庭について理解を深めることが家庭生活論の目的である。本科目は、中高教科家庭を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	次の3つのことを目指す。 1. 家庭生活について知ること、即ち、自分自身とは何かを理解すること。 2. 個人の人生に必要な物語を身の回りの日常から紡ぎ出す視点を身につけること。 3. 家庭生活をデザインし、実践するための技法について考えること。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎					◎		
26UHEI2138	服飾デザイン論	2	今日の服装は多様化し個性化が求められている。「服飾デザイン論」では衣服をデザインする側、またそれを選択する側として、服飾デザインの基礎を系統的に幅広い観点から学ぶ。また衣服の主流を占めているアパレル製品のデザインについても理解を深める。本科目は、中高教科家庭を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	学生は服飾デザインに関して3つの目標到達に取り組む。 1. 服飾デザインにおける用と美の融合を分析し、美的な側面を認識する能力を獲得する。 2. 造形要素やディテールに関する知識を習得する。 3. 服飾デザイン・企画に関するファッションビジネスの基礎的知識を習得する。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎					◎	
26UHEI3139	繊維製品材料学	3	アパレルやインテリアに関わる繊維製品に要求される消費性能を把握し、それらに使用されている糸、布、その他の繊維材料を製造するプロセスから構造・特性・性能などの基礎的知識を修得する。本科目は、中高教科家庭を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	糸や布の構造や性能を理解し、適材適所に応じて活用ができる能力を養い、人が健康で安全に、豊かで快適な生活を過ごすために必要な繊維製品を選択し提供できる知識修得を目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎					◎	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）								
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生きること”につながる専門性	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力	
					知識		姿勢			行動			
1	2	3	4	5	6	7	8						
26UHEI3140	現代ファッション論	3	現在のファッションは偶然に行き着いたのではなく、意図的なコトによって誘導されたものである。そのコトが及ぼしたモノへの影響を学び、今後のファッション生活を考える。本科目は、中高教科家庭を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	現代ファッションの流れを理解し、ファッション生活思考の基礎的な素養を身につける。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎							◎	
26UHEI3141	アパレル構成学実習 I	3	人体を被う衣服の一連の製作過程を学び、被服構成の知識や技術を修得する。またこれらを活用発展させる能力、時代の持つファッション性や美的感性、さらに既製衣料の選択眼も養うことを目的とする。本科目は、中高教科家庭を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	原型を使用した衣服パターンの作図と衣服の組み立て工程の理解、服種と表布・裏布・芯地・糸・針の関連性への理解、基礎縫製技術、縫製実習にかかわる機器類（職業用ミシンやロックミシンなど）や道具の使用が習得ができることを到達目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		○		○				◎	
26UHEC3023	保 育 学	3	子どもを育てることは社会全体の責任であり、その基礎となる正しい医学的・生物学的・社会的知識を身につける。子どもの健全育成に必要な環境や人的援助についての理解を深め、教養ある女性保育者としての常識的な判断力を養う。本科目は、中高教科家庭を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	保育とは何かを理解し、子どもの心身の発達を知り、子どもへの理解を深め、保育者としての力を養う。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。			◎				◎		
26UHEC3024	調 理 学 実 習	3	食品の調理特性を理解し、調理操作を行い、栄養・嗜好を考慮した食品の組み合わせによる食事の提供、食品衛生的な取り扱い方法、作業の能率化、供食形態、食卓準備等を考え、健康的で楽しい食生活が計画できることを目的とする。本科目は、中高教科家庭を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	適切な調理操作を習得する。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		○				◎	◎		
26UHEC4025	食 物 学	4	食物の栄養成分が私たちの生命活動の維持や健康の保持に対してどのように関与し、なぜ食物の適切な摂取が必要であるかについて理解し、また健全な食生活を営むための基礎的な知識も修得する。本科目は、中高教科家庭を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	学生は、食生活に栄養の知識を活かし、健康の保持・増進、疾病の予防が図れるように栄養の役割について理解する。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎					◎		
26UHEC3026	卒 業 基 礎 演 習	3	4年次の「卒業研究」を行うにあたって、その基礎を身につけることを目的とする。	「卒業研究」の基礎となるような知識、技術、研究対象へのアプローチの手法などを習得することを目標とする。	○			◎	◎	◎	◎	◎	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）							
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					知識		姿勢			行動		
					1	2	3	4	5	6	7	8
26UHEC4027	卒業研究	4	大学での教育・研究の総仕上げとして、生活環境学における各分野の課題を発掘し、調査・研究を遂行し結論に到達する過程を体験し、問題提起と課題解決の方法および結果の発表の仕方を身につける。	情報の収集・整理の能力、分析・考察の能力、提案力・創造力を高め、総合的な真の実力を身につける。	○	○	○	◎	◎	◎	◎	○
26UHEJ1350	建築計画学Ⅰ	1	建築の計画・設計には、建築の種類による独自の特性に関する知識や理論を学ぶ必要があり、ここでは住宅・集合住宅を設計する上で必要となる計画理論について学ぶ。	住宅・集合住宅を中心として、建築計画上で重要となる物の寸法の決定要因や平面計画・動線計画の技法、そしてその背景となる考え方などについて修得することを目標とする。	○	◎				◎		
26UHEJ4351	建築計画学Ⅱ	4	建築の計画・設計には、建築の種類による独自の特性に関する知識や理論を学ぶ必要があり、ここでは学校・商業施設・宿泊施設・オフィス等の計画理論について学ぶ。	住宅以外で一般の人々に比較的なじみが深い学校・商業施設・ホテル・事務所建築などを計画する上で必要となる建築上の特徴的な事項について修得することを目標とする。		◎				◎		
26UHEJ1352	まちづくり論Ⅰ	1	本科目は、まちや社会における現状や課題について理解し、まちづくりに関する基本的な知識を身につけることで、まちづくりを実践しうる力を養うことを目的としている。	・まちや社会における現状や課題を理解し、説明できる。 ・まちづくりの主体や手法など基本的な知識を理解し、説明できる。	○	◎	○			○		○
26UHEJ4353	まちづくり論Ⅱ	4	まちづくりについて、基礎的、および、応用的な内容を学習し、その理念や意義、これからのまちづくりのあり方等について理解を深める。	まちづくりについて、実践し得る応用的な知識を習得する。	○	◎	○			○		○
26UHEJ2354	環境計画	2	適切な室内環境のあり方と、自然環境を利用しながら機能性を快適性を維持する建築空間のあり方を理解する。	室内の環境計画にあたって重要となる環境工学の考え方を理解し、人にも環境にも優しい建築空間の工夫を提案する能力を養う。		◎	○			◎		
26UHEJ4355	福祉住環境概論	4	身体や感覚器官にハンディキャップを持つ人が住み慣れた環境で自立生活を送るために、住環境の整備が社会全体の課題となっている。本科目では安全・安心で健康的な住環境のあり方について学ぶ。	自立生活のための住環境整備のあり方を理解した上で、自己や他者の暮らしの不便・不自由に気づいて住環境を整備する力を養い、住まいの設計やまちづくりにおける福祉デザインへの応用につなげる。	◎		◎			○		
26UHEJ3356	日本建築史	3	日本建築の時間的な展開と、それぞれの時代の特色について理解することを目的とする。	日本建築の様式的特徴を理解する。具体的には時代による意匠や構造の違いを理解することを目標とする。	○	◎				◎		
26UHEJ4357	世界建築史	4	世界のいろいろな地域や時代の建物が、どのような「建築」としての特徴を持っているのか、そして「建築」という見方を生み出した西洋の歴史・文化が、どのような建築を作ってきたのか、これらの概要を理解することを目的とする。	「建築」という見方で世界の建物をみた時に浮かび上がる様々な建築のあり方を理解し、「建築」という見方を生んだ西洋の「建築」はどんな建築を作ってきたのかを、歴史と意匠と様式を通して理解する。	○	◎				◎		
26UHEJ3358	建築一般構造Ⅰ	3	3つの主要な構造（木構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造）を中心に建築物の骨組みや仕上げの構成について基本的な知識を習得する。	建築に関する用語を学び、建築全般に対して幅広く理解する。		◎				◎		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）								
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					知識		姿勢			行動			
					1	2	3	4	5	6	7	8	
26UHEJ4359	建築一般構造Ⅱ	4	建築物の一般的な成り立ち（重力や地震力に抗して建っている原理）と、架構形式と建築造形の関連を理解する。	多様な各種の架構方式の基本原理と、それによって形作られる構造物の造形との関係を理解することを目標とする。		◎				◎			
26UHEJ4360	建築材料学	4	建築との関わりをふまえた上で、心理面・環境面を考慮した材料の選択を学ぶことで、材料の要求性能を理解する。	建築材料の要求性能を理解し、材料選択にあたって適切な判断をする力を養うことを目標とする。		◎				◎			
26UHEJ4361	建築設備	4	建築内部とその近傍の環境を適切に整え、建築内部の人間の活動を支援する建築設備について、その原理や構成を理解する。	建築において、メカニカルな方式や自然を活用する方式などを用いて室内環境を整える種々の方法とその原理についての知識を習得することを目標とする。		◎				◎			
26UHEI2142	衣生活管理学	2	衣生活や住生活を考えた場合、汚れを界面現象を利用して落とすことは重要である。この講義では、主に洗浄を中心に、界面の科学を理解することを目的とする。	洗浄を中心とした繊維製品のメンテナンス、製品の初期性能の維持、トラブルの原因について、原理から理解できるようになることと、応用力をつけることを目標とする。		◎				◎			
26UHEI3143	アパレル企画論	3	アパレル業界における商品企画について、具体的な進め方、要点を事例の紹介や演習などを交えて、現実のアパレル商品企画を習得する。	アパレル業界での、新規ブランド企画、商品企画、およびセールスプロモーション企画の基礎知識の習得。		◎					◎		
26UHEI3144	染色加工学	3	テキスタイルアドバイザーとしても必要な、衣料品を始めとする繊維製品の染色や加工のされ方、その品質面を踏まえた取り扱いに関わる基礎的な素養を得る。ファッション製品にとって、色柄は重要な要素であるが、色あせや色落ちが起こっては困る。初期性能の維持、トラブルの原因について、原理から「わかる」こと、応用力をつけることを目指す。	なぜ染まるかが、原理から理解できるようになること、そのことで、変退色などのトラブルの原因や防止につながる素養を得ることを目標とする。		◎				◎			
26UHEI1145	繊維学	1	繊維が、最終製品のデザインや被服の機能に与える影響は大きい。美しく快適な衣生活のために、繊維のなりたちや性能を理解し、使用目的にあった素材の選択ができる知識を身につけ、制作、取り扱い、加工などに役立つ幅広い資質を養う。	“繊維”の基礎知識を身につけ、豊富な繊維素材を目的に応じて自由に選択できる能力を養い、被服をはじめとする生活素材として実生活の中で役立たせることを目標としている。	○	◎				◎			
26UHEI1146	アパレル未来学	1	深刻化する気候変動に対して、持続可能な社会を強く意識し取り組むアパレル企業の動向や、「服を買う」ことに対する意識の変化が与えるアパレルへの影響、様々な社会問題に対して求められるアパレルの役割など、歴史や社会的背景、文化や産業など様々な視点からアパレルの未来を考え学ぶ。	これから求められるアパレルの役割を歴史や社会的背景、文化や産業など様々な視点から理解し、自身の衣生活や社会に対して問題提起でき、これからのアパレルの未来を考える能力を養う。	◎			○		◎	○		
26UHEI2147	消費生活論	2	高度情報化、消費のサービス化、グローバル化など社会経済情勢の著しい変化に伴い、多様化、複雑化する消費者問題の現状と課題を知り「消費者市民社会」の担い手としての資質を修得することを目的とする。	安全で快適な真に豊かな消費生活を営む能力・知識を得ることと併せ、社会の発展と改善に積極的に関与できるような「考え、行動する自立した消費者」としての資質を修得する。	◎					◎			

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）								
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生き残る”につながる専門性	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力	
					知識		姿勢			行動			
1	2	3	4	5	6	7	8						
26UHEI3148	服飾史	3	古代から現代までの服飾の様式と特徴を理解する。また、服飾の歴史は人間の生活の歴史でもあるため、衣服という身近な存在をとおして、自分がどのような文化的背景をもっているかを学び、人間の生活の理解を深める。	服飾の歴史を学ぶことによって、社会の特徴や文化的な特質について理解を深める。また、文字資料や画像資料の扱いを学び、資料の検索や収集の方法を身につける。	◎						○		
26UHEI3149	被服心理学	3	被服が人の心理や社会的行動に与える影響を体系的に理解する。特に、被服が個人のアイデンティティ、自己表現、社会的ステータスにどのように関わるかを探求し、実生活での応用を目指す。	被服が個人の心理状態や社会的認識に与える影響を批判的に分析できる能力を身につける。また、ファッションや被服の選択が自己表現や他者とのコミュニケーションにどのように影響を与えるかを理解し、それを応用して、専門的な場面や日常生活での衣服選択において、より意識的かつ戦略的な決定を行えるようになる。	○		○					○	
26UHEI3150	アパレル設計生産論	3	量産化されている既製服の設計・生産工程を理解し、その問題点や改良点を考える。	既製服の設計・生産に関する基礎的な知識を習得する。		◎						◎	
26UHEI3151	アパレル生理衛生論	3	様々な環境下における温熱的、衛生的に快適で健康で安全な衣服や衣生活についての理解を深めることを目的とし、衣服は多くの機能を併せ持つが、その中で着心地・快適性は人間と関わってはじめて評価されるものであることを学ぶ。	衣服は色やデザインなど審美的な要素が重要視されがちであるが、衣服の機能はそれだけではない。本授業では、人間の最も身近な環境である衣服について、様々な環境において求められる衣服の機能を考え、健康で安全に快適な衣生活を実践できる能力を修得する。		◎					◎		
26UHEI4152	消費科学	4	衣生活を中心に生産者や消費者が関わるモノとサービスの生産、流通、消費・廃棄・循環の実態を学び、生活の豊かさの背景にある様々な問題に対して科学的にアプローチするための手法や考え方を学ぶ。	消費者が望む品質を知り、消費者行動と流通、消費・廃棄・循環の関係性を理解し、生活や社会の問題に対して科学的にアプローチする能力を修得する。テキスタイルアドバイザー資格取得希望者は、生産者と消費者に科学的な内容を分かりやすく伝え、双方の問題と要望を橋渡しする立場として必要な能力を養う。		◎					◎		

令和8年度入学生用カリキュラムマップ

【生活環境学科】

【住環境・まちづくり領域】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）							
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生き残る”に繋がる専門性	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力
					知識		姿勢		行動			
		1	2	3	4	5	6	7	8			
26UHEJ1301	建築計画学Ⅰ	1	建築の計画・設計には、建築の種類による独自の特性に関する知識や理論を学ぶ必要があり、ここでは住宅・集合住宅を設計する上で必要となる計画理論について学ぶ。	住宅・集合住宅を中心として、建築計画上で重要となる物の寸法の決定要因や平面計画・動線計画の技法、そしてその背景となる考え方などについて修得することを目標とする。	○	◎				◎		
26UHEJ2302	建築計画学Ⅱ	2	建築の計画・設計には、建築の種類による独自の特性に関する知識や理論を学ぶ必要があり、ここでは学校・商業施設・宿泊施設・オフィス等の計画理論について学ぶ。	住宅以外で一般の人々に比較的近い学校・商業施設・ホテル・事務所建築などを計画する上で必要となる建築上の特徴的な事項について修得することを目標とする。		◎				◎		
26UHEJ1303	建築一般構造Ⅰ	1	3つの主要な構造（木構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造）を中心に建築物の骨組みや仕上げの構成について基本的な知識を習得する。	建築に関する用語を学び、建築全般に対して幅広く理解する。		◎				◎		
26UHEJ3304	建築一般構造Ⅱ	3	建築物の一般的な成り立ち（重力や地震力に抗して建っている原理）と、架構形式と建築造形の関連を理解する。	多様な各種の架構方式の基本原則と、それによって形作られる構造物の造形との関係を理解することを目標とする。		◎				◎		
26UHEJ1305	建築設計基礎実習	1	建築、空間設計において、設計図面はデザイン意図を他者に伝えるための重要な手段であり、優れた建築・空間を理解するには、図面を読み取る能力が必要である。この科目では、設計製図における基礎知識と表現技術を学び、図学、製図法、空間の各部位の機能・構造、スケールについて習得する。そのうえで様々な空間を特徴づける空間構成要素への理解を深め、小住宅を設計するプロセスを学ぶ。	設計実習に必要な基本的な製図知識と技術を習得し、各自が考案した小住宅を設計図面（平面、断面、立面図、透視図）、模型で表現できる。空間を構成している要素、素材を理解し、適切なスケール感覚を身につけている。空間の構成要素がもたらす効果を理解し、要素を使って小住宅を立案できる。		◎			○	○		
26UHEJ1306	CG基礎実習	1	コンピュータグラフィックス（CG）には様々な種類のソフトウェアがある。この科目では二次元グラフィックソフトと三次元モデリングソフトを使用して、空間デザインにおけるプレゼンテーションツールを学ぶ。	コンピュータを使用して、自分の考えた空間プランをCGによって表現できるようになる。	○	○		○		◎		
26UHEJ2307	住宅設計	2	生活行為のベースとなる住空間の構成を学んだ上で、設計条件の整理、デザインワーク、製図、模型表現を通じて、基本的な住宅設計のプロセスを習得する。同時に、人体や物品の寸法、各室の機能、室間の関係、外部と内部、プライベートとパブリック、および個別のテーマをふまえた設計力を習得する。	立地条件、住み手のライフスタイルなど、様々な設計条件を分析し、核として設定した生活行為を支える住空間からインテリアエレメントまでをトータルに構想・立案できる。立案した住空間を具体的な戸建住宅として設計、提案できる。		◎			◎	◎	○	
26UHEJ2308	構造力学Ⅰ	2	建築物の設計において最も基礎となる、構造物の力学に関する理論を基礎から体系的に理解する。	建築設計における力学的な考え方の基礎を習得する。		◎				◎		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）															
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目															
					1. 多様な社会を理解する力		2. “生きつながる専門性”		3. 自他を尊重する姿勢		4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢		5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢		6. 論理的に考え伝える力		7. 新たな価値を創造する力		8. 多様な人々と協働する力	
					知識		姿勢		行動											
1		2		3		4		5		6		7		8						
26UHEJ2309	構造力学 I 演習	2	「構造力学 I」で習得する構造物の力学に関する理論を、例題の解説と演習問題を解くことでより深く理解する。	建築設計において必要な力学的な考え方を習得するための演習問題を自力で解けること。		○			◎	◎										
26UHEJ2310	構造力学 II	2	「構造力学 I」を基本とし、不静定構造物の解法を理解すると共に、構造設計の基本的な考え方や「鉄筋コンクリート部材」と「鉄骨部材」の力学的特性を理解する。	部材に生じる変形や、不静定構造物の断面力を求めることができること、および「鉄筋コンクリート部材」と「鉄骨部材」の安全性の確認ができること。		◎					◎									
26UHEJ2311	構造力学 II 演習	2	「構造力学 II」で習得する「不静定骨組みの応力解析法」や「構造設計の考え方」および「鉄筋コンクリート部材」と「鉄骨部材」の力学特性について例題の解説や演習問題を解くことで、より深く理解し習得すること。	例題や演習問題で解いた「不静定骨組み」の応力解析が自力で解けること。および「構造設計の考え方」を理解し「鉄筋コンクリート部材」と「鉄骨部材」の断面の安全性の確認ができること。		○			◎	◎										
26UHEJ2312	世界建築史	2	世界のいろいろな地域や時代の建物が、どのような「建築」としての特徴を持っているのか、そして「建築」という見方を生み出した西洋の歴史・文化が、どのような建築を作ってきたのか、これらの概要を理解することを目的とする。	「建築」という見方で世界の建物をみた時に浮かび上がる様々な建築のあり方を理解し、「建築」という見方を生んだ西洋の「建築」はどんな建築を作ってきたのかを、歴史と意匠と様式を通して理解する。	○	◎					◎									
26UHEJ2313	日本建築史	2	日本建築の時間的な展開と、それぞれの時代の特色について理解することを目的とする。	日本建築の様式的特徴を理解する。具体的には時代による意匠や構造の違いを理解することを目標とする。	○	◎					◎									
26UHEJ2314	建築CAD実習	2	設計製図の基本は、鉛筆と定規を使って紙の上に美しく、力強い線を描くことである。コンピュータを使って設計をすることが主流の現在でもこのことを忘れてはいけない。CADに使われるのではなく、CADを自分の利用目的にあわせてうまく使いこなせるようになることが目標である。	2次元CAD機能を使い、設計図書（平面図、立面図、断面図など）が自由に描けるようになることを目標とする。		○			◎	◎										
26UHEJ2315	建築・インテリア設計 I	2	住宅設計で学んだ基本的な住宅設計のスキルを活かし、特殊な諸条件を整理し、必要機能をふまえたうえで魅力的な住空間を設計する能力を習得する。	厳しい設計条件のもと、核として設定した生活行為の基盤となる魅力的な住空間を考察し、具体的な建築として設計・提案できる。生活基盤となる空間の機能と標準規格を理解し、個別の条件に沿った形に応用できる。		◎			◎	◎	◎									
26UHEJ3316	建築・インテリア設計 II	3	地域交流の場を有する生活拠点施設の設計を通じて、地域社会の課題や地域の資源を発見・分析のプロセスを経て地域に開かれた生活拠点としての建築のあり方を理解し、魅力あるまちを再生・創造する企画能力と必要機能をふまえたうえで地域コミュニティを活性化する建築を設計する能力を習得する。	各建築に必要な機能を踏まえつつ、建築が地域の活性化に対して果たせる役割とは何かを考え、それらを建築設計に反映できる。		◎			◎	◎	◎									

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）							
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生きつなげる専門性”	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
1	2	3	4	5	6	7	8					
26UHEJ3317	建築・インテリア設計Ⅲ	3	小規模文化施設の設計を通じて、地域社会の課題や地域の資源を発見・分析のプロセスを経て社会に開かれた公共建築のあり方について理解し、魅力あるまちを再生・創造する企画能力と必要機能をふまえたうえで建築と周辺環境などに配慮した建築を設計する能力を習得する。 さらに、既存木造住宅のリノベーションにおいて、居住環境を高めるための実践的設計能力を習得する。	建築に必要な機能を踏まえつつ、不特定多数の人々の意識を惹きつけ、魅力的で心地の良い場所とは何かを周辺環境の状況などを配慮しながら考え、それらを建築設計に反映できる。 既存建築をより心地よい空間としてインテリアエレメントを含めてトータルに設計・提案できる。		◎			◎	◎	◎	
26UHEJ3318	建築材料学	3	建築との関わりをふまえた上で、心理面・環境面を考慮した材料の選択を学ぶことで、材料の要求性能を理解する。	建築材料の要求性能を理解し、材料選択にあたって適切な判断をする力を養うことを目標とする。		◎				◎		
26UHEJ3319	建築材料学実験	3	主要な建築材料に関する実験を通して、材料や測定機器に触れることによって、実験計画と測定法の基礎を習得し、諸材料の性能や特性を明らかにする。加えて、建築構造および建築生産に関する基本的事項の理解を深める。	主に主要構造材料（コンクリート、鋼材、木材）について、基礎的な実験手法を通して、性質・性能を理解させる。		○			◎	◎		
26UHEJ3320	建築設備	3	建築内部とその近傍の環境を適切に整え、建築内部の人間の活動を支援する建築設備について、その原理や構成を理解する。	建築において、メカニカルな方式や自然を活用する方式などを用いて室内環境を整える種々の方法とその原理についての知識を習得することを目標とする。		◎				◎		
26UHEJ3321	建築施工	3	建築工事の発注から完成に至るまでの各段階の内容について、その概要を論述する。これを通じて一連の建築施工の流れとその技法を理解する。	建築（木造、鉄骨構造、鉄筋コンクリート造）に関する企画、施工、竣工、維持管理までの流れについて理解すること。		◎				◎		
26UHEJ3322	建築法規	3	秩序ある街や安全で安心して住める建物をつくるために、各種の建築法規があるが、この講義では建築法規のうち主体となっている建築基準法を中心に、どのような規制・誘導が行われているのかを学ぶ。また併せて、建築に関わるものとしての技術者倫理について考える。	都市や建物をコントロールしている法律について理解を深めるとともに、主として住宅を設計したり購入する際に役立つ建築法規（ルール）を学ぶ。	◎	○				◎		
26UHEJ1323	暮らしの人間工学	1	本科目の目的は、暮らしの中のモノや空間と人との関係を人間工学的視点で捉え、適切なデザインを理解することにある。 本科目は、中高教科家庭を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	モノや空間を対象に、それらを使う人の特性から危険や不安を発見する観察力を身につけ、人間工学の視点で安全・安心・快適なデザインを提案する素養を修得する。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎		◎			◎		
26UHEJ2324	人間工学実習	2	人間工学分野で用いられる評価手法を学び、人間とモノとの関わりを人間工学的視点から捉えるとともに、住まいやまちにおけるユニバーサルデザインのあり方を理解する。	暮らしの中の道具や空間を対象とし、人間工学の視点から問題点に気づいて住環境を改善できる力を身につける。	◎		◎					◎
26UHEJ2325	環境計画	2	適切な室内環境のあり方と、自然環境を利用しながら機能性と快適性を維持する建築空間のあり方を理解する。	室内の環境計画にあたって重要となる環境工学の考え方を理解し、人にも環境にも優しい建築空間の工夫を提案する能力を養う。		◎	○			◎		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）								
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					知識		姿勢			行動			
					1	2	3	4	5	6	7	8	
26UHEJ2326	環境計画実習Ⅰ	2	環境四要素である「光」「音」「熱」「空気」などからテーマを設定し、環境要素と人間の心理や行動との関係を客観的に捉えた上で適切な環境を計画する手法を、実習を通して習得する。	環境要素や人間の心理・行動を客観的に評価するために必要な調査計画や分析手法を習得し、環境計画にあたって自ら使えるようになることを目標とする。		○		◎					◎
26UHEJ3327	環境計画実習Ⅱ	3	室内環境の評価法の習得を通して快適かつ省エネルギーな室内環境のあり方を理解することを目的とする。	屋外の自然環境を適切に利用した快適な室内環境を提案できる能力を養う。		○		◎				◎	
26UHEJ3328	福祉住環境概論	3	身体や感覚器官にハンディキャップを持つ人が住み慣れた環境で自立生活を送るために、住環境の整備が社会全体の課題となっている。本科目では安全・安心で健康的な住環境のあり方について学ぶ。	自立生活のための住環境整備のあり方を理解した上で、自己や他者の暮らしの不便・不自由に気づいて住環境を整備する力を養い、住まいの設計やまちづくりにおける福祉デザインへの応用につなげる。	◎		◎			○			
26UHES2241	阪神間文化論	2	私たちが学ぶ、「阪神間」という地域では、「阪神間モダニズム」という用語が言及されることも少なくなく、この「モダニズム」が一つの特性となっている。「阪神間モダニズム」のなかで展開されてきた芸術・音楽・ファッション・生活スタイルなどを、阪神間モダニズムを象徴する建築でもある甲子園会館（旧甲子園ホテル）のような実際に現存する「阪神間」という空間において、フィールドワークを含めながら学びたい。	生活環境学を専門とする私たちが、身近な地域の生活環境を学ぶだけでなく、同時に「モダニズム」とは何かということを考えていくことによって、それぞれの創作にいかしていきたい。単なる地域の学習ではなく、これからの創造のための学びを目標としている。	◎						◎		
26UHES3242	生活美学	3	日常生活の事柄やモノは、合理的・科学的に捉えられる一方で、趣味や好み、快適さのような精神的な決まりのつけ方によって落ち着きどころを得ている。この講義では、後者の立場から生活環境におけるさまざまな価値を発掘し、理解する。これらを通して、日常生活におけるプリミティブな思考と感性の実存性や豊かさを明らかにする。	総合的で有機的な日常生活の美学的探求のノウハウとともに、生活を探求することの喜びと輝き、豊かさを論じることができる人間性を身につける。関連情報について関心を高め、感性を磨き、生活環境を知識や理解のみならず五感で感じるようになることを期待する。	◎						◎		
26UHEJ3329	生活文化論演習	3	生活文化を読み解くには様々な方法論が存在するが、その中で最も一般的かつ基本的な手法といえるのが、モノやコトの歴史を知ること、つまり、対象となるモノやコトの変化を時系列に並べ、何が変化し、何が変化していないかを調査によって明らかにしていくことである。この授業ではその手法の習得だけでなく、対象となるモノやコトに対し新たな知見を得ることを目的とする。	生活文化における情報の収集、整理、分析に必要な技術を習得することを目標とする。	◎						◎	◎	
26UHEJ1330	まちづくり論Ⅰ	1	本科目は、まちや社会における現状や課題について理解し、まちづくりに関する基本的な知識を身につけることで、まちづくりを実践しうる力を養うことを目的としている。	・まちや社会における現状や課題を理解し、説明できる。 ・まちづくりの主体や手法など基本的な知識を理解し、説明できる。	○	◎	○				○		○
26UHEJ2331	まちづくり論Ⅱ	2	まちづくりについて、基礎的、および、応用的な内容を学習し、その理念や意義、これからのまちづくりのあり方等について理解を深める。	まちづくりについて、実践し得る応用的な知識を習得する。	○	◎	○				○		○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）							
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1. 多様な文化・複雑化する社会を理解する力	2. “生きること”につながる専門性	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
1	2	3	4	5	6	7	8					
26UHEC1018	家庭生活論	1	家庭生活を知らない人はいない。この世に生を受けてから死ぬまでの間、誰でも毎日経験している学問、それが家庭生活である。本来、日常知で済んでいたことをなぜわざわざ大学で学ぶのかと言えば、現代人にとって家庭生活が自明のものではなくなってしまったからだ。家庭生活を支える二本の柱、家族も家屋も、いまや個人が解決しなければならない対象として私たちの前に立ちほだかっている。いわば人間として生きる上での戦略的拠点—家庭について理解を深めることが家庭生活論の目的である。本科目は、中高教科家庭を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	次の3つのことを目指す。 1. 家庭生活について知ること、即ち、自分自身とは何かを理解すること。 2. 個人の人生に必要な物語を身の回りの日常から紡ぎ出す視点を身につけること。 3. 家庭生活をデザインし、実践するための技法について考えること。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎					◎		
26UHEC2019	色彩学	2	色彩の表示方法を中心として、色と光を科学的に捉えることを学ぶ。プロダクトや空間の色彩を計画するための基礎を習得することを目標とする。本科目は、中高教科家庭を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	色と光を科学的に捉える力をつける。日常的な生活環境における様々なものの色彩を適切な表色系を用いて表現すること、および、表色値から色を想像できるようにすることが到達目標である。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎			○		○	○	
26UHEC2020	統計学 I	2	近年、適切にデータ分析を行うことや分析された結果を適切に読み取ることが様々な分野で重要視されるようになってきている。本科目では、記述統計や統計的推測といったデータ分析や統計の基礎となる事項について学習する。また、Excelを用いて単回帰分析やt検定などの基礎的な分析を行う手法について学習する。	データ分析や研究計画の際に必要な標本抽出や母数の推定などの考え方や用語、各種統計量の意味、帰無仮説や有意確率など検定で用いる基本的な概念について理解する。また、データに対して簡単な集計を行い、単回帰分析やt検定といった基礎的な分析を行う方法を身につける。	◎					◎		
26UHEC2021	統計学 II	2	統計は様々な分野で利用されており応用も幅広い。本科目では、発展的な統計手法について学習するとともに、統計の理論を支える数学的背景についても学習を行う。また、統計ソフトを利用した分析や学術論文などに記載されている統計分析結果の読み方についても学習を行う。	多変量解析やノンパラメトリック検定などの基礎の学習ではふれられることが少ない統計手法について分析の考え方や結果の読み取り方を理解し、論文などに記載された分析結果を適切に読み解く能力および自身で解析を行うための知識や能力を身につける。また、統計的推測や検定の理論的背景を理解することを目指す。	◎					◎		
26UHEI2154	服飾デザイン論	2	今日の服装は多様化し個性化が求められている。「服飾デザイン論」では衣服をデザインする側、またそれを選択する側として、服飾デザインの基礎を系統的に幅広い観点から学ぶ。また衣服の主流を占めているアパレル製品のデザインについても理解を深める。本科目は、中高教科家庭を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	学生は服飾デザインに関して3つの目標到達に取り組む。 1. 服飾デザインにおける用と美の融合を分析し、美的な側面を認識する能力を獲得する。 2. 造形要素やディテールに関する知識を習得する。 3. 服飾デザイン・企画に関するファッションビジネスの基礎的知識を習得する。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎					◎	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）								
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生き残る”につながる専門性	3. 自己を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力	
					知識		姿勢			行動			
1	2	3	4	5	6	7	8						
26UHEI3155	現代ファッション論	3	現在のファッションは偶然に行き着いたのではなく、意図的なコトによって誘導されたものである。そのコトが及ぼしたモノへの影響を学び、今後のファッション生活を考える。本科目は、中高教科家庭を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	現代ファッションの流れを理解し、ファッション生活思考の基礎的な素養を身につける。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎							◎	
26UHEI3156	繊維製品材料学	3	アパレルやインテリアに関わる繊維製品に要求される消費性能を把握し、それらに使用されている糸、布、その他の繊維材料を製造するプロセスから構造・特性・性能などの基礎的知識を修得する。本科目は、中高教科家庭を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	糸や布の構造や性能を理解し、適材適所に応じて活用ができる能力を養い、人が健康で安全に、豊かで快適な生活を過ごすために必要な繊維製品を選択し提供できる知識修得を目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎				◎			
26UHEC3023	保育学	3	子どもを育てることは社会全体の責任であり、その基礎となる正しい医学的・生物学的・社会的知識を身につける。子どもの健全育成に必要な環境や人的援助についての理解を深め、教養ある女性保育者としての常識的な判断力を養う。本科目は、中高教科家庭を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	保育とは何かを理解し、子どもの心身の発達を知り、子どもへの理解を深め、保育者としての力を養う。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎				◎			
26UHEC3024	調理学実習	3	食品の調理特性を理解し、調理操作を行い、栄養・嗜好を考慮した食品の組み合わせによる食事の提供、食品衛生的な取り扱い方法、作業の能率化、供食形態、食卓準備等を考え、健康的で楽しい食生活が計画できることを目的とする。本科目は、中高教科家庭を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	適切な調理操作を習得する。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		○			◎	◎			
26UHEC4025	食物学	4	食物の栄養成分が私たちの生命活動の維持や健康の保持に対してどのように関与し、なぜ食物の適切な摂取が必要であるかについて理解し、また健全な食生活を営むための基礎的な知識も修得する。本科目は、中高教科家庭を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	学生は、食生活に栄養の知識を活かし、健康の保持・増進、疾病の予防が図れるように栄養の役割について理解する。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎				◎			
26UHEC3026	卒業基礎演習	3	4年次の「卒業研究」を行うにあたって、その基礎を身につけることを目的とする。	「卒業研究」の基礎となるような知識、技術、研究対象へのアプローチの手法などを習得することを目標とする。	○			◎	◎	◎	◎	◎	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）								
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					知識			姿勢			行動		
					1	2	3	4	5	6	7	8	
26UHEC4027	卒業研究	4	大学での教育・研究の総仕上げとして、生活環境学における各分野の課題を発掘し、調査・研究を遂行し結論に到達する過程を体験し、問題提起と課題解決の方法および結果の発表の仕方を身につける。	情報の収集・整理の能力、分析・考察の能力、提案力・創造力を高め、総合的な真の実力を身につける。	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○
26UHEI2157	衣生活管理学	2	衣生活や住生活を考えた場合、汚れを界面現象を利用して落とすことは重要である。この講義では、主に洗浄を中心に、界面の科学を理解することを目的とする。	洗浄を中心とした繊維製品のメンテナンス、製品の初期性能の維持、トラブルの原因について、原理から理解できるようになることと、応用力をつけることを目標とする。		◎				◎			
26UHEI2158	繊維学	2	繊維が、最終製品のデザインや被服の機能に与える影響は大きい。美しく快適な衣生活のために、繊維のなりたちや性能を理解し、使用目的にあった素材の選択ができる知識を身につけ、制作、取り扱い、加工などに役立つ幅広い資質を養う。	“繊維”の基礎知識を身につけ、豊富な繊維素材を目的に応じて自由に選択できる能力を養い、被服をはじめとする生活素材として実生活の中で役立たせることを目標としている。	○	◎				◎			
26UHEI2159	アパレル未来学	2	深刻化する気候変動に対して、持続可能な社会を強く意識し取り組むアパレル企業の動向や、「服を買う」ことに対する意識の変化が与えるアパレルへの影響、様々な社会問題に対して求められるアパレルの役割など、歴史や社会的背景、文化や産業など様々な視点からアパレルの未来を考え学ぶ。	これから求められるアパレルの役割を歴史や社会的背景、文化や産業など様々な視点から理解し、自身の衣生活や社会に対して問題提起でき、これからのアパレルの未来を考える能力を養う。	◎			○		◎	○		
26UHEI3160	アパレル企画論	3	アパレル業界における商品企画について、具体的な進め方、要点を事例の紹介や演習などを交えて、現実のアパレル商品企画を習得する。	アパレル業界での、新規ブランド企画、商品企画、およびセールスプロモーション企画の基礎知識の習得。		◎					◎		
26UHEI3161	服飾史	3	古代から現代までの服飾の様式と特徴を理解する。また、服飾の歴史は人間の生活の歴史でもあるため、衣服という身近な存在をとおして、自分がどのような文化的背景をもっているかを学び、人間の生活の理解を深める。	服飾の歴史を学ぶことによって、社会の特徴や文化的な特質について理解を深める。また、文字資料や画像資料の扱いを学び、資料の検索や収集の方法を身につける。	◎					○			
26UHEI3162	染色加工学	3	テキスタイルアドバイザーとしても必要な、衣料品を始めとする繊維製品の染色や加工のされ方、その品質面を踏まえた取り扱いに関わる基礎的な素養を得る。ファッション製品にとって、色柄は重要な要素であるが、色あせや色落ちが起こっては困る。初期性能の維持、トラブルの原因について、原理から「わかる」こと、応用力をつけることを目指す。	なぜ染まるかが、原理から理解できるようになること、そのことで、変退色などのトラブルの原因や防止につながる素養を得ることを目標とする。		◎				◎			
26UHEI3163	消費生活論	3	高度情報化、消費のサービス化、グローバル化など社会経済情勢の著しい変化に伴い、多様化、複雑化する消費者問題の現状と課題を知り「消費者市民社会」の担い手としての資質を修得することを目的とする。	安全で快適な真に豊かな消費生活を営む能力・知識を得ることと併せ、社会の発展と改善に積極的に関与できるような「考え、行動する自立した消費者」としての資質を修得する。	◎					◎			
26UHEI3164	アパレル設計生産論	3	量産化されている既製服の設計・生産工程を理解し、その問題点や改良点を考える。	既製服の設計・生産に関する基礎的な知識を習得する。		◎					◎		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）															
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目															
					1. 多様な社会を理解する力		2. “生きながらえること”につながる専門性		3. 自他を尊重する姿勢		4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢		5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢		6. 論理的に考え伝える力		7. 新たな価値を創造する力		8. 多様な人々と協働する力	
					知識		姿勢		知識		姿勢		知識		姿勢		知識		姿勢	
1		2		3		4		5		6		7		8						
26UHEI3165	アパレル生理衛生論	3	様々な環境下における温熱的、衛生的に快適で健康で安全な衣服や衣生活についての理解を深めることを目的とし、衣服は多くの機能を併せ持つが、その中で着心地・快適性は人間と関わってはじめて評価されるものであることを学ぶ。	衣服は色やデザインなど審美的な要素が重要視されがちであるが、衣服の機能はそれだけではない。本授業では、人間の最も身近な環境である衣服について、様々な環境において求められる衣服の機能を考え、健康で安全に快適な衣生活を実践できる能力を修得する。		◎					◎									
26UHEI4166	消費科学	4	衣生活を中心に生産者や消費者が関わるモノとサービスの生産、流通、消費・廃棄・循環の実態を学び、生活の豊かさの背景にある様々な問題に対して科学的にアプローチするための手法や考え方を学ぶ。	消費者が望む品質を知り、消費者行動と流通、消費・廃棄・循環の関係性を理解し、生活や社会の問題に対して科学的にアプローチする能力を修得する。テキスタイルアドバイザー資格取得希望者は、生産者と消費者に科学的な内容を分かりやすく伝え、双方の問題と要望を橋渡しする立場として必要な能力を養う。		◎					◎									
26UHEI4167	被服心理学	4	被服が人の心理や社会的行動に与える影響を体系的に理解する。特に、被服が個人のアイデンティティ、自己表現、社会的ステータスにどのように関わるかを探求し、実生活での応用を目指す。	被服が個人の心理状態や社会的認識に与える影響を批判的に分析できる能力を身につける。また、ファッションや被服の選択が自己表現や他者とのコミュニケーションにどのように影響を与えるかを理解し、それを応用して、専門的な場面や日常生活での衣服選択において、より意識的かつ戦略的な決定を行えるようになる。	○						○	○								
26UHES2244	生活文化演習 I	2	生活文化を理解するためには、学術的な方法で調べ、分析することが有効である。また、調査分析した内容を伝えるためには、その上で自分なりに意見をまとめ、文章や図表で表現することが求められる。この演習では、生活文化を理解するために必要な学術的な思考方法、調査方法、分析方法、文章表現の基礎を学ぶ。	生活文化の理解に必要な調査方法を学び、基礎的な学術的文章を読み、学術的なルールに従ってレポートにまとめる。	○					○	◎	◎								
26UHES3245	生活文化演習 II	3	身近な生活の中で、役立つ優れたデザインについて考える。	学生はデザインを構成するさまざまな要素を発見し、分析し、優れたデザインの美的構造を理解する。	○					○	◎	◎								
26UHES3246	生活文化演習 III	3	暮らしの中のモノについて理解を深める。そのために、普通の暮らしの中で実際に使われた生活財の背景にある生活文化を読み解く。また、近現代の名作といわれる家具・プロダクト製品について、その時代背景と作者の意図を読み解く。	暮らしの中で使われたモノおよび近現代の名作といわれるモノについて、ある目的に対して調査・分析をおこなう方法を修得する。さらに、そこから得た結果を考察し、自己の考えをまとめ、それらについて記述する方法を修得する。	○					○	◎	◎								
26UHES3247	インテリアテキスタイル概論	3	我々の生活を取り巻く住環境には様々な繊維製品が存在するが、そのひとつとして室内装飾のインテリアテキスタイルを取り上げ、その歴史から製造方法、デザイン、試験方法まで概説し繊維製品全般への幅広い知識を身につけ、物の評価や価値を見分けられる能力の向上を目指す。	多くのインテリアテキスタイル商品が溢れ、物の価値が一律では量れない時代、物づくりを改めて見直すことで、物と人の関係性を取り戻し、物の評価や価値を正しく見極め、生活に役立てられる力を養う。		◎					◎									

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）										
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生きること”につながる専門性	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力			
					知識		姿勢			行動					
		1	2	3	4	5	6	7	8						
26UHES3248	生活デザイン論	3	学生は講義を通じて、生活を営む上で必要な要素としてのモノ・行為を取り出すとともに、それらを可能にする生活デザインの特性と機能について考える。	学生は講義を通じて次の2つの目標到達に取り組む。 1. 学生はモノ（ものづくり）のデザインとコト（仕組み）のデザインが生活の中で果たす役割を知る。 2. そのうえ、優れたデザインの特徴とは何かを考え、生活デザインの企画実践につなげる基本的素養とする。				◎						◎	
26UHES3249	視覚文化論	3	私たちが取り巻く様々な視覚文化を理解する。	近代以降の社会は、視覚偏重の社会と言われる。あらゆる物事において、視覚的要素は、ますます重視されている。タイポグラフィから映像に至るまで、いわゆる視覚文化（ヴィジュアル・カルチャー）と呼ばれる領域について、幅広く学んでいく。	◎								◎		
26UHES3250	比較地域文化論	3	日本各地や世界各国の住居・集落・まちを中心とした「集まって住む暮らし」に見る生活文化について横断的に学ぶ。	日本各地や世界各国の地域の暮らしを紹介して、比較することで、生活環境を学ぶ上で重要となる生活文化の地域性について深く理解して視野を広げること目標とする。	◎				◎						○
26UHES4251	環境リスク学	4	現代社会では暮らしを豊かにするために様々な製品や技術が開発されているが、時としてこれらは人間の健康や生活に悪影響を与えるリスクを有している。安全・安心で、かつ豊かな生活を提案していくには、これらのリスクを適切に評価・管理していくことが必要である。本講義では、そのために必要な知識や方法論について学ぶ。	政策決定で用いられているリスク評価およびリスク管理の方法論について知識をつけ、安全で安心な生活環境を提案する能力を養うことを目的とする。	◎		◎						○		○
26UHES4252	生活調査演習	4	人の心理と行動は生活環境を考えていく上で非常に重要な要素であるが、形あるものではないため直接物理・化学的に計測することはできない。しかしながら、適切な方法で客観的なデータに落とし込み定量的に分析していくことで様相を探っていくことは可能である。本科目では、そのための調査計画や手法について学ぶ。	人間の心理や行動を客観的に評価し分析していくために必要な調査計画や分析手法を理解し、研究を進めていく際にこれらを使いこなせるようになることを目的とする。	◎			○						◎	
26UHES4253	空間デザイン原論	4	近代以降、建築の主題は「建築」から、建築が内包する「空間」に移行し現代の建築空間のものとなっている。近代の建築家が、空と大地の間に人間の「空間」を開くために提示した理念・方法と作品の特徴について学び、それらの関係を理解する。	近代建築は、イギリスの産業革命が欧米諸国に拡大する過程で発祥・発展し、日本をはじめ世界へと拡散した。そこには、過去の慣習から自由になった人々の生活要求に沿った合理的で健康な生活空間が望まれた。組積造から鉄筋コンクリート造や鉄骨造への移行はそれを後押しした。建築家が近代の生活要求に応えるために提示した空間デザインが現代の「もと」となっている理由について理解する。	○			◎						◎	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）								
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生きること”につながる専門性	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力	
					知識		姿勢			行動			
1	2	3	4	5	6	7	8						
26UHES4254	日本デザイン史	4	日本は開国以降、西洋の仲間入りを目ざしたが、それは政治や経済の問題であるとともにデザインの問題でもあった。西洋化、近代化による生活や価値観の変化は、そのまま物のデザインとなって現われた。また、デザイナーたちは、物の形を通して日本のアイデンティティを模索した。この講義では、日本における近代デザインについて紹介しながら、今日の社会にも直接的につながる問題を歴史的に考えていく。	日本におけるモダンデザインを代表する作品とデザイナーを知ることを通して、デザインという視点から、日本における近代について理解し、日本の現在の社会を把握するとともに、これから先の日本の社会とデザインの関わりを、自分なりに考えることができるようになる。	◎						◎		